

KGA

'88 夏季号
昭和63年8月1日発行



No. 23

目次

理事長インタビュー	1
江戸崎カントリー倶楽部理事長 矢野 範二	
コラム・芝草物語	3
昭和63年度関東女子ゴルフ選手権競技	4
昭和63年度関東アマチュアゴルフ選手権競技	6
委員長インタビュー	8
ジュニア委員長 斎藤 文志郎	
ゴルフQ&A	10
競技委員会より	11
昭和63年度関東倶楽部対抗予選競技	12
昭和63年度関東倶楽部対抗決勝競技	17
分科委員会	22
月例競技成績表(2・3・4・6月)、お知らせ	24
表紙Photo 戸塚カントリー倶楽部	

 関東ゴルフ連盟

理事長インタビュー

社会的連携を得るために基金集めを

江戸崎カントリー倶楽部理事長 矢野 範二

聞き手・KGA広報委員 杉山 通敬
写 真・KGA広報委員 石川 博英



——今年度の関東オープン開催倶楽部の理事長として、ご苦心なさって点、あるいは抱負といったものをまずお聞かせ下さい。

「実は、わたくしは東京ゴルフ倶楽部でゴルフを始めましてね、戦前に。常任理事をやってた時期も、戦後のことですけどありますて、いわば東京倶楽部を本家のように思ってるわけです。今年はその本家で日本オーブン、江戸崎で関東オーブンが開催される。コースのたたずまいなど似たところがありますし、プレーしてくれた選手から“良いコースだ”と言われるようにしたい、と思ってるわけです。会員の皆さんにも意義ある大会だったと満足してもらえるようにしたい。ところが、会員のなかには関東ゴルフ連盟の存在を知らない人がいるし、また、関東オーブンはどういう目的で開催されるのか。自分達のコースで1週間もの間、会員がプレーできない状態になるのが、このことについてどう思うか、という意見も出してね、KGAとは何ぞや、そこが主催する関東オーブンとは何ぞや、という疑問に答える必要に迫られたわけです。それで、会報に書いたんです。ま、ご覧ください。」

その会報の冒頭に矢野理事長はつぎのように書いておられる。

〈関東ゴルフ連盟50年史には「ゴルフはかつて特権階級の遊びといわれ、老人のゲームと評されたこともあった。しかし、それは完全に時代錯誤の思想となっている。ゴルフはこんにち、国民の日常生活と切り離すことができない健全なスポーツであり、レクリエーションとなっている」と述べられている。先日、当倶楽部で関東オーブン競技の第1回準備委員会を開いたと

ころ、多くの方から関東ゴルフ連盟とは何か、オープンゴルフ選手権の目的は何か、というような質問があった〉

——連盟のPR不足でしょうかね。たしかに一般ゴルファーにはそうした疑問があるのは確かだと思います。

「わたくしが思うに、資金不足でしょうね。これだけ大衆化して、若い人もたくさんやるようになったわけですから、その時代に即応した活動をするためには、ある程度の基金が必要だと思います。昭和20年代のことですが、経済同友会に関係していたことがありましてね、どうやって基礎固めをしたらよいか思案したことがあるんです。で、各社が増資するとき、株を提出してもらい、それを基金にしたわけです。額面50円の株を200株なり、500株なり提出して頂いて、それが値上がりしたところで売る。300円や500円にはすぐになりますから、それがまとまれば大きな基金ができる。そうやって経済同友会の基礎固めのお手伝いをしたことがありますので、日本ゴルフ協会なり関東ゴルフ連盟も傘下のゴルフ場にご協力願って、1株でいいから会員権を提出しても

らったらどうかと思うんです。これだけ幅広い層の人がやってるスポーツはほかにないわけですから、社会的な連携を得るためにには、それなりの基金を集めて、基礎固めをする必要がある、と、わたくしは思いますね」

——その基金の運用の仕方が問題ですね。

「経済同友会の場合は額面50円の株が値上がりしたところで、ある銘柄など1000円、2000円になりましたからね、そこで売ったわけですが、ゴルフクラブの会員権も高額ですから、1俱楽部1株提出順っても、売れば何十億という金になる。これを基金にして、運用していくべきさまざまな活動が出来るはずです。今が、そのいい時期だと思うんです。細川護貞さんが会長をやっておられる、今が。このたび、関東オープンをお引受けするに当って、商売柄(弁護士)、いろいろ調べたんですが、ゴルフ連盟はあまりにもブラーですよ。資金がないために、さまざまな面に無理がでているように思いましたね」

——大変に有益なご意見だと思います。各俱楽部がその気になってくれれば、本当に、すぐにでも実現させたいですね。

「国際的なスポーツになったわけですから、それに見合った活動するためには経済的にブラーだったら立遅れてしまう。いずれはオリンピックの競技種目にもなるでしょうし、世界共通の規範をつくり上げていく必要にも迫られていくでしょうし、ここらでしっかりした基礎を築く必要があると思いますね。ゴルフ場経営というのは儲けようとしても儲からな



い商売で、わたくしはよく言うんですよ。儲けるつもりなら他の商売をやれって」

——経営と俱楽部運営のかね合いがむずかしいところなんでしょうか、KGA(あるいはJGA)という組織は経営者の団体ではなくて、俱楽部の団体なので矢野理事長が、いま、ご指摘なさったように資金的にブラーなところがあるんでしょうね。

「ま、いろいろと難しい問題はあるでしょうが、これだけ各階層の国民が広くやるようになったわけですから、民主的で、開放的で、料金などももっと安く出来るようにしていく必要があると思いますね。利用税や固定資産税なども国の一言になりて払ってる。ひとりひとりだと弱いですから力になりませんけど、組織が政治献金できるくらいの力を持つ必要があると、わたくしは思うんです」

——ところで、日頃から理事長がお感じになっているゴルフ観があつたらお聞かせ下さい。

「福沢諭吉翁の人間交際論に、こんなことが書いてある。人に交わらんとするには、ただちに旧友を忘れざるのみならず、兼ねて又親友を求めざる可からず。人類相接せざれば、互に其意を益すことを能はず。意を益すことを能わざれば其人物を知る由なし。ゴルフ場というところは、万人との交際の場なんですね。自分とその仲間だけが楽しめばいいものじゃない。誰もが健康増進を思い、明るく、開放的にプレーしたいと思っているわけです。そこに改まさるして出てくる風格というものがコースにも人にも備わってくる。わたくしはそういう場にしたいと思っています。平山金輝さんが江戸崎を造るに当って考えたことも同じでしてね、明るい俱楽部を自分たちで造ろうということにわたくしも賛同し、ここまでお手伝いをしてきたわけです。ですから、感謝と自戒を忘れないようにしてます」

——一年間来場者はどのくらいですか。

「去年の場合でビジターが50,968名、メンバーカー19,875名です。売上げは18億円程度です。平日のビジターフィーは1万円ですから、よそさまにくらべれば安いと思います。これも安い料金で明るく、庶民的にゴルフを楽しんでいただきたいという平山前社長や今里広記前理事長からの意図を守りたいと思ってるからです」



——最後に理事長ご自身のゴルフ歴を。失礼ですがおトシモ。

「もう80歳(明治40年生)ですよ。戦前、小金井CCを安達建設が造るときに、土地のところでちょっと問題がありました、当時、安達建設の顧問弁護士

をやっていた関係で、その解決のお手伝いをした。それがきっかけでゴルフを始め、秩父CC(昭和13年開場)が出来たときに入会したわけです。その秩父が東京ゴルフ俱楽部と一緒にになったことで、さいぜん申しましたように東京の常任理事を、野村駿吉さんが理事長のころにやっていたようなわけです。腕前のほうはたいしたことないですが、いちばん達者なころで“7”までにはなりましたね。いまはもう90で回るのがやっとで、たまに80台が出たり、100をオーバーしたり。ま、あと、5、6年このままいけば、エージ・シートに1度ぐらいは挑戦するチャンスがあるのではないか、と思っています」

コラム・芝草物語⑥

芝草のS.O.S.

今から28年前、私が霞ヶ関カンツリー俱楽部の支配人に就任した頃のことである。数年後には是非とも欧米に劣らぬ優秀なペントグリーンを造り上げたいとの夢を抱いた。その為には一日も早く研究室を設けなければとの思いに駆られ当時のキャブテン横田玄司氏に相談した。幸に同氏の賛同を得、また理事会の承認も取り付けることが出来たので、平塚の国立園芸試験場の荒木隆男先生と、於保信彦先生にご指導を願い研究活動を開始した。

研究室の課題は、一つはグリーンに発生する各種の病害と害虫に関する研究である。いま一つは気候にも病気に強い品種の発見と、土壤構成及び施肥方式確立のための研究であった。前者については先生方の御指導のお蔭で、病害対策に大きな自信を得ることができた。また後者については上記試験対象項目を試験的に組合せた32試験区を設け、二ヵ年に亘り毎週二回の芝の生草重秤量と生育状態の観察(評点)を行った結果極めて満足すべき結論を得ることが出来た。これ等の試験研究は新しいグリーン造りに大変参考になる資料を提供してくれた。研究室設置後は、私自身も研究課題に取り組んで

KGAグリーン委員
坂本 章一

来たが、芝との接触が深まるにつれて芝への愛情が芽生えてきた。カッティングを見る度毎に「切られて痛かろう」と可哀そうに思う様になつたのである。ちょうどその頃、某大学の農科の教授に芝の研究のことでお目にかかり、その「芝の痛み」についてお話し致したところ、「その愛情があれば立派な研究が出来ますよ。良い話を聞かせて貰いました」といわれた。

次にペントグラスの病気と臭いについて一寸触れて置きたい。

或る日グリーンキーパーと一緒にコースの見廻りをしていた時、グリーンの近くで異様な臭いを感じた。よく見ると病気が出はじめていたのである。念の為その道のプロであるキーパーに聞くと、「何の臭いも感じません」と全く意外な返事が戻ってきた。両者の関係についてはよく判らないが、私が感じたこの臭いは、芝から私への秘かなS.O.Sではなかったかと、フッと思ったのだ。私はその後も「芝の苦しみや痛み」を感じながら、この20数年を過ごして來たが、この心の籠った触れ合いのある限り、いつしかこの様な感情が生まれて来るものだという、誠に貴い経験をさせて貰った。

昭和63年度 関東女子ゴルフ選手権競技

●開催コース 白鳳カントリー倶楽部 全長6,215ヤード パー72

●開催期間 5月24日・25日 2日間 36ホール、ストローク・プレー

ルポ・宮元 昭雄 (KGA広報委員)
写真・片山 晴美 (KGA広報委員)



逆転優勝 喜びの渡辺恵子選手

渡辺恵子 4年ぶり、 2度目の栄冠

5月末のシーズンでは考えられないほどの異常気温が続き、試合当日の天候が危惧された。しかし当日は、幸い北風を伴うやや肌寒い程度で148名の選手たちは2日間の決勝大会“関東一”の名誉をかけて華々しく争った。

初日トップに躍り出た渡辺恵子 (高根) は最終組で前年の覇者三木恵美子 (富士)、61年の覇者高橋良江 (嵐山) と同じ組、ライバル同士との対決となり、これに新人柴田規久子 (東我孫子) を交えて最終ホールまで息詰まる熱戦が展開された。

2位との4差は早くも前半で縮まった。1組前を回る永沢利永子 (入間) がアウト37と好調なすべり出しをみせ首位タイと並び、三木も1差に詰め寄つて三者の激しいせり合いが続いた。1年間の海外勤務でブランクのあった高橋は腰痛がひどく後退、後半にその追い込みが期待された永沢だったが、インの出足で大きく崩れて自滅。

海外遠征 (クイーン・シリキット杯) 組の喜多麻子、花田由紀、木原智絵の3人も遠征の疲れか、いまひとつ伸びなかつた。大型新人と騒がれた北島順子 (専修大一年) が15位タイと健闘、初日不振の尾閑久江 (武蔵) が前半36のベスト・スコアで回り期

待されたが、12位タイにとどまった。ベテラン組の嶋田万里子 (長野) の4位、中田朱美 (袖ヶ浦) の5位タイは健闘といえよう。ようやく開花しはじめた丸谷京子 (サン・グリーン) が手堅く3位に入賞したのは立派だ。

試合の展開は渡辺と二連続を狙う三木との対決にしばられた。17番1打リードの渡辺が第1打を池に落し、この時点で三木が逆転してトップに立ったが、最終ホール、18番(399ヤード、パー4) 強い向かい風で95%以上の選手が2オンを果たせなかつたという難ホールで、渡辺は豪快なドライブを見せ、2打でグリーンをはずした三木を横目にピンハイ右10ヤードに2オン (5番アイアン使用) させて試合をおもしろくした。

三木は下り15ヤードのパーパットを逃し、プレーオフかと思われたが、球運は渡辺に傾いた。

見事に決めたバーディーパット。一瞬にして再逆



1ストローク三木にリードされた渡辺 最終ホールで一世一代の逆転バーデー パットが入って優勝

転、4年振り2度目の栄冠を勝ち取った。

まさに体力と強気の攻めの勝利であり、一方三木に惜しまれるのは最終ホールの攻め方ではなかつただろうか。

なお、表彰式では決勝10年連続出場の次の6名が表彰された。

近藤千鶴、嶋田万里子、鈴木エツ、中田朱美、三木恵美子、渡辺恵子。

熱戦後の和やかなパーティー

昭和63年度 関東女子ゴルフ選手権決勝競技成績表

参加者146名 5月24日(火)・5月25日(水) 於：白鳳カントリー倶楽部

順位	選手名	所属	第1ラウンド		第2ラウンド		合計	
			アクトイン 計	アウトイン 計	アクトイン 計	アウトイン 計		
1	渡辺 恵子	高根	38	36	74	41	78	153
2	三木恵美子	富士	41	37	78	38	76	154
3	9谷 万里子	サングリーン	39	35	78	40	79	157
4	嶋田万里子	長野	43	38	81	38	79	158
5	喜多 麻子	鳥山城	40	41	81	38	78	159
6	水沢千鶴	入間	40	38	78	37	44	161
7	中田 朱美	袖ヶ浦	38	40	78	71	40	159
8	木原 智絵	ケンダ	41	40	81	40	79	160
9	市川 寛子	江戸川	41	39	80	41	79	160
10	原田 香里	鳥山城	39	41	80	40	80	160
11	柴田規久子	東我孫子	39	38	77	43	40	160
12	尾閑 久江	嶋田	46	40	86	36	39	161
13	吉田 朋子	大根	40	41	81	38	42	161
14	高橋 良江	鳥山城	39	39	78	41	42	161
15	宮田 聖子	桜木宮	40	41	81	44	37	162
16	森 由紀	東京	38	38	80	41	41	162
17	北島 順子	専修	38	41	79	42	41	162
18	森川 京子	東京	39	40	78	43	41	162
19	矢島 順子	士官	41	43	84	41	38	163
20	阿部 浩之	赤城	43	44	84	40	40	164
21	小笠原みさ子	木根	41	40	81	43	43	164
22	赤谷 三鶴	板橋	38	42	80	44	40	164
23	加藤 美栄	平塚	39	45	84	40	41	165
24	内田 トシ子	東ノ宮	42	40	82	42	41	165
25	花田 由紀	城	39	41	80	48	37	165
26	湯瀬 光葉	鳥山城	43	45	86	39	41	166
27	中江 幸世	慶應	44	41	85	40	41	166
28	大 順子	大根	40	45	85	41	41	167
29	赤堀道也子	大根	37	47	84	39	44	167
30	三牧シゲ子	広陵	44	39	83	39	45	167
31	原 和子	東名	42	45	87	41	41	167
32	田山 由紀	東名	42	44	86	40	43	169
33	福井 美保	GMG	43	43	86	41	42	169
34	伊能 仁美	扶桑	42	44	86	41	42	169
35	五十嵐洋子	森	42	40	82	45	42	169
36	森 みお	浦和	40	40	80	44	45	169
37	田中 伸優	凌	44	43	87	39	44	170
38	仁科 良子	野	41	45	86	41	43	170
39	金田 正子	大根	42	43	85	43	42	170
40	鈴木 エツ	大根	41	44	85	41	44	170
41	猪股 美恵子	上総	43	45	84	44	42	170
42	亀井 陽子	河口湖	43	43	86	44	41	171
43	森 文子	濃溝	44	41	85	42	43	171
44	今井 美千代	志	44	43	87	39	44	171
45	中田 伸子	厚木	41	45	86	41	43	172
46	田村 千代子	立川	42	44	86	40	47	173
47	谷 口典江	鎌ヶ谷	41	42	84	45	45	173
48	近藤 利江	河口湖	44	44	88	44	41	173
49	新田 佐喜子	藤原	40	47	87	41	46	174
50	外川 典子	河口湖	43	46	86	45	43	174
51	草間 明子	長野	43	45	88	43	43	174
52	島 久美子	厚木	42	45	87	43	45	175
53	島崎 千鶴	東名	42	45	87	43	45	175
54	和田せづ子	中根	42	46	88	45	42	175
55	土川 里枝	武藏	42	46	88	46	42	176
56	高橋 真典	鳥山城	42	46	88	43	45	176
57	里見 真左子	府中	46	41	87	44	45	176
58	能 登里紀	関東	44	41	85	46	45	176
59	菊地 恵美子	郡山	43	48	91	41	44	176
60	黒沼カホル	鳥山城	43	42	85	46	45	176
61	目崎美枝子	江戸川	47	44	91	44	41	176
62	豊田 昭子	霞ヶ丘	43	43	86	44	47	177
63	手塚 昭子	霞ヶ丘	43	44	87	45	46	177
64	青木 茜子	東京	40	44	88	46	47	177
65	田中 清子	横浜	43	44	87	45	46	177
66	高橋 知子	南	46	46	92	42	44	178
67	渡辺 恵子	千葉	46	47	91	44	45	178
68	小林 千鶴	東京	43	43	86	44	47	178
69	香川 由紀	霞ヶ丘	43	44	87	45	46	178
70	青木 真理	横浜	42	44	88	45	47	178
71	喜多 麻子	入間	43	44	87	45	48	178
72	高橋 顺子	本郷	46	46	92	42	44	178
73	大 徳 照子	千葉	46	46	92	43	43	178
74	小野寺 まき	東京	45	45	90	44	44	178
75	香藤 美樹	東京	49	40	89	45	44	178
76	石川 淑子	戸崎	47	43	90	44	44	178
77	郷 朝 順子	船橋	44	44	88	43	45	179
78	真田 由裕子	横野	43	43	86	46	47	179
79	長 旗 光子	戸崎	44	47	91	43	45	179
80	大井 富士子	大井	42	43	85	46	48	179
81	福澤 淳子	ノーザン	42	48	90	46	43	179
82	甘 朝 純子	千葉	42	47	89	43	47	179
83	宇野喜代美子	東京	43	45	88	46	47	180
84	大木 美代子	大根	41	43	87	46	46	180
85	松本 広江	御殿場	44	47	91	44	45	180
86	小出 美子	千葉	46	44	90	45	46	181
87	田村 美子	小川	45	44	89	47	45	181
88	伊勢 勲	千葉	47	44	91	42	47	182
89	高橋 美代子	東京	44	50	94	44	44	182
90	正木 美穂	立川	43	43	86	51	45	182
91	安田 幸子	相模原	49	44	93	44	45	182
92	平松由香里	大根	45	48	93	43	46	182
93	太田由紀	千葉	47	44	91	42	49	182
94	三輪 駿介	中根	45	47	92	46	47	182
95	石掛 駿介	千葉	47	44	96	41	46	183
96	佐藤 利子	美美	42	45	87	47	47	183
97	成田 信子	美美	45	42	87	49	47	183
98	折原 真理子	美美	47	47	94	48	43	183
99	東山 駿子	聖心	44	44	88	46	45	183
100	田口 さや	大洗	49	43	92	48	44	184
101	石田 雅子	平原	45	46	91	45	47	184
102	大久保清子	木根	45	45	90	48	46	184
103	二宮 由理子	相模原	42	42	89	50	46	185
104	岩谷 晴子	戸崎	47	45	90	47	47	185
105	森 哲子	戸崎	45	45	88	49	46	185
106	森 哲子	戸崎	47	44	91	42	47	185
107	大久保 達也	川越	47	42	89	50	46	185
108	石井 由紀	東京	46	51	97	46	43	186
109	森 哲子	戸崎	48	46	94	44	48	186
110	森 哲子	戸崎	46	47	93	49	44	186
111	森 哲子	戸崎	46	47	94	48	43	186
112	大久保 達也	川越	47	42	89	50	46	186
113	石井 由紀	東京	47	45	90	48	46	186
114	大久保 達也	川越	47	44	91	47	47	186
115	大久保 達也	川越	47	42	89	50	46	186
116	大久保 達也	川越	47	44	91	47	47	186
117	大久保 達也	川越	47	44	91	47	47	186
118	大久保 達也	川越	47	44	91	47	47	186
119	大久保 達也	川越	47	44	91	47	47	186
120	森 哲子	戸崎	48	46	94	44	48	

昭和63年度 関東アマチュアゴルフ選手権競技

●開催コース 中山カントリークラブ 全長6,885ヤード パー72
●開催期間 6月14日・15日・16日 3日間 72ホール、ストローク・プレー

ルポ・杉山 通敬 (KGA広報委員)
写真・石川 博英 (KGA広報委員)



優勝楯を手にした伊沢利光選手

“李下に冠を正さず”

「社会人には負けないようにしようぜ、と、前の晩に丸山と話していたんです」

優勝後のプレスインタビューで伊沢利光はそんなふうに言っていたが、前半の36ホールを終って10位タイまでの12名のうち、学生は彼ら2人を含め7名に及んだ。社会人のなかには常勝阪田哲男と加藤一彦がいたので、社会人には負けたくない、という言葉の裏には阪田と加藤に向ける対抗意識があったものと思われる。決勝の36ホールは1日で消化する強行軍である。若い学生が有利になるのは当然で、それも負けたくない意識をつのらせたであろうが、結果的には伊沢と丸山茂樹のマッチレースに終った。2人のプレーぶりはのびのびとし、屈託がなく、好感がもたらされた。学生らしいキビキビした試合運びも快い印象を与えた。

ただ、ひとつだけ気になったことがある。パー3のホールのクラビングで、それとなく自分が使用したクラブを知らせるような知らせないような、なんとも微妙な呪きを耳にしたことである。私の空耳で

あれば幸いだが、あからさまにやればアゲインスト・ルールになりかねないことがある。“李下に冠を正さず”、若い二人の将来のために老婆心ながら敢えて苦言を呈しておく。

もうひとつ気になることがあった。これは2人のことではない。彼ら最終組（他の2名は加藤一彦と木下幸一）が17番174ヤードのティショットをする場面をグリーン右側で観戦しつつ、ふと、バンカーを見ると足跡が残っているのだ。かなり前に出来たものらしく、足跡の表面はすでに白くなつたが、スパイクでつけた痕跡は残っていた。バンカーのはば中央だったので、ギャラリーが踏み入ってつけたものではないだろう。午前中、他の組のプレーを観戦していた際も、8番ホールのグリーン脇のバンカーに、これはもつとほつきりと、大きな足跡が残ったままになっていた。チャンピオンシップに出場てくるほどの選手のなかに、自分が傷つけたバンカーをならしません出るものかいるのだ。これまた、他山の石、もって玉をみがくべく、敢えて書きとめておく。

が、総じては優勝者のスコアを見てもわかるように技術的向上も著しく、プレーぶりも真摯で好感がもてたというのが関係者の意見であった。今年度のエントリーは関東アマ史上最多の854名に達し、この分では来年度は5ブロックの予選を6ブロックにする必要があるかもしれない、検討することである。では、選手の皆さん、向後1年の切磋琢磨を。



10番の伊沢選手のティーショットを見つめる丸山選手

昭和63年度 関東アマチュアゴルフ選手権決勝競技成績表

参加者162名 6月14日(火)～16日(木) 於：中山カントリークラブ

順位	選手名	所 属	1R				2R				3R				4R				合計
			アクトイン 計																
1	伊沢利光	棚倉田倉	35	35	70	35	36	71	34	36	70	35	34	69	280	36	高安信行	セントラル	37 41 78 37 37 74 36 40 76 37 38 75 303
2	丸山茂樹	土 浦	37	38	75	33	33	66	35	36	71	35	35	70	282	40	杉山 稔	總 武	37 38 75 39 40 79 38 38 76 37 37 74 304
3	川岸良兼	鳥 山 城	36	40	76	36	36	72	35	37	72	34	33	67	287	40	太田再勇	大 相 模	39 39 78 37 39 76 35 39 74 39 37 76 304
3	加藤一彦	千 葉	34	35	69	36	37	73	37	37	74	36	35	71	287	40	佐久間健一	桜	37 37 74 37 39 76 41 39 80 37 37 74 304
5	堀越栄治郎	相 模 原	37	38	75	36	37	73	34	36	70	35	35	70	288	40	岡部太郎	專 修 大	38 39 77 38 38 76 41 37 78 35 38 73 304
5	鈴木 亨	鳥 山 城	36	36	72	33	38	71	36	35	71	37	37	74	288	40	國分泰孝	相 模 湖	38 37 75 38 39 77 38 35 73 39 40 79 304
7	北島泰介	鳥 山 城	35	36	71	36	37	73	35	36	71	36	39	75	290	45	藤崎和典	富士・笠間	39 38 77 36 38 74 39 39 78 35 41 76 305
8	木下幸一	伊豆にわやま	37	35	72	36	35	71	37	37	74	36	39	75	292	45	宮 岸 央	習 志 野	37 37 74 38 38 76 38 38 76 40 39 79 305
8	大友富雄	塙 原	39	39	78	38	36	74	35	36	71	35	34	69	292	45	岡庭正春	江 戸 嶺	38 40 78 37 38 75 39 38 77 37 38 75 305
10	阪田哲男	袖 ケ 浦	34	33	67	39	37	76	36	37	73	37	40	77	293	48	本山年夫	矢 板	40 39 79 36 36 72 43 34 77 38 40 78 306
11	小川 透	岡部チサン	39	38	77	37	35	72	38	35	73	36	36	72	294	48	隈元安雄	錦 子	39 39 78 37 38 75 40 35 75 39 39 78 306
11	室野 歩	新 千 葉	37	38	75	38	35	73	36	36	72	38	36	74	294	48	杉山猛美	東 名	38 39 77 38 38 76 39 43 82 38 33 71 306
11	野上浩一	日本 大	34	38	72	37	37	74	39	37	76	36	36	72	294	48	得能三郎	柳 木	38 39 77 37 38 75 36 39 75 39 40 79 306
14	前場敏信	杉 ノ 郷	34	38	72	36	38	74	37	35	72	40	37	77	295	52	本田昌之	塙 原	38 39 77 39 38 77 38 39 77 37 39 76 307
14	加部嗣男	東 名	36	35	71	37	36	73	37	39	76	35	40	75	295	52	山本啓智	立川国際	38 38 76 37 39 76 38 39 77 39 39 78 307
16	和田 博	東京五日市	35	40	75	38	40	78	37	36	73	36	34	70	296	54	阿部恭邦	伊豆にわやま	38 39 77 40 37 77 37 38 75 40 39 79 308
17	杉山直也	紫 塚	39	39	78	37	39	76	37	34	71	36	37	73	298	54	志村幹夫	大 洗	38 36 74 38 37 75 37 36 73 47 39 86 308
17	金子光規	日本 大	37	38	75	38	39	77	37	38	75	32	39	71	298	54	五十嵐唯部	東京五日市	37 42 79 38 35 73 37 40 77 40 39 79 308
17	秋山市郎	大黒海国際	36	39	75	38	36	74	37	38	75	36	38	74	298	57	岩本健二	專 修 大	38 37 75 40 39 79 40 39 79 38 38 76 309
17	中野弘治	美 菖	35	36	71	37	37	74	42	39	81	36	36	72	298	57	相馬久男	袖 ケ 浦	36 40 76 37 39 76 37 41 78 40 39 79 309
21	宮本恵治	日本 大	37	38	75	37	39	76	36	39	75	35	38	73	299	57	中島広行	伊豆にわやま	35 40 75 36 40 76 42 40 82 38 38 76 309
21	藤田雅也	岡部チサン	39	36	75	38	37	75	36	39	75	38	36	74	299	57	小倉雅人	関東ジュニア	41 36 77 37 39 76 39 42 81 39 36 75 309
21	根本太満	水 戸	40	38	78	38	37	75	34	37	71	38	37	75	299	57	森永正隆	武 藏	41 37 78 39 36 75 38 38 76 40 40 80 309
21	北川裕規	鳥 山 城	41	39	80	36	37	73	38	34	72	37	37	74	299	57	齊藤兼光	鬼 怒 川	37 40 77 39 37 76 39 37 76 40 40 80 309
21	津瀬圭一郎	パブリック協会	35	38	73	38	35	73	35	38	73	38	42	80	299	57	傍島輝雄	千 葉	39 38 77 38 37 75 38 38 76 41 40 81 309
26	水沢純一	袖 ケ 浦	38	37	75	37	39	76	38	36	74	39	36	75	300	64	山口現朗	武 藏	39 38 77 38 39 77 38 38 76 41 39 80 310
26	金沢俊彦	東京国際	35	40	75	37	38	75	36	37	73	38	39	77	300	64	久保武夫	藤 园	38 41 79 35 40 75 40 39 79 37 40 77 310
28	石川淳一	関東ジュニア	38	37	75	39	36	75	39	37	76	36	39	75	301	66	鶴岡義久	房 穂	41 39 80 35 36 71 39 43 82 39 39 78 311
28	岡田光史	鶴 舞	38	37	75	37	37	74	37	39	76	38	38	76	301	66	岡田光正	嵐 山	37 40 77 38 38 76 39 38 77 40 41 81 311
28	大作清春	千 葉	42	36	78	36	35	71	37	38	75	41	36	77	301	66	島村弘行	皆 川 城	39 38 77 37 39 76 39 39 78 40 40 80 311
28	成田朋正	浜松豊岡園場	38	38	76	38	39	77	39	37	76	35	37	72	301	69	佐藤昌弘	日 光	38 40 78 37 39 76 39 38 77 40 41 81 312
32	波場イサク	セベルムズ	38	41	79	37	38	75	37	38	75	35	38	73	302	69	小林恵一	鹿 沼	39 37 76 39 37 76 39 43 82 38 40 78 312
32	河本徳三朗	津久井湖	41	35	76	38	38	76	36	38	74	38	38	76	302	69	宮原幸	東京よみうり	38 37 75 38 40 78 40 39 79 39 41 80 312
32	大竹 勝	根	38	41	79	38	36	74	40	36	76	38	35	73	302	72	鶴岡憲人	青 梅	41 34 75 38 41 79 37 44 81 38 40 78 313
32	小出一允	始 ケ 崎	38	40	78	34	38	72	38	38	76	39	37	76	302	72	打越 守	水 戸	35 44 79 39 36 75 39 37 76 39 44 83 313
36	室伏健二	東 名	39	37	76	40	38	78	39	35	74	40	35	75	303	72	内藤正幸	武 藏 野	39 39 78 39 35 74 40 40 80 42 39 81 313
36	内藤正幸	桜 ケ 丘	38	38	76	38	39	77	36	37	73	38	39	77	303	75	梶原久義	甲府国際	37 37 74 40 39 79 39 41 80 38 45 83 316
36	鈴木軍治	袖 ケ 浦	35	40	75	42	36	78	39	39	78	35	37	72	303				

●予選メダリスト 第1ブロック 齊藤昌俊(嵐山) 第2ブロック 清水幸彦(日高)
第3ブロック 加部嗣男(東名) 第4ブロック 小出一允(始ケ崎) 第5ブロック 渡辺健雄(浜松豊岡園場) 八木啓政(日光)

委員長インタビュー(第6回)

ジュニア委員長 斎藤 文志郎
聞き手・KGA広報委員 宮元 昭雄



今年の関東ジュニア予選競技のエントリー数は、なんと1,368名、史上最高だ。これを炎天下、3日間でこなさなければならないとなると、関係者、とくにジュニア委員諸氏のご苦労は大変なものだ。

ますます増加するジュニア・ゴルファー——その指導、教育はどうあるべきか、委員長に抱負を語っていただいた。

——ジュニア・ゴルファーの急増傾向は、大変喜こばしいことですが、それなりに委員会の役割もまた重要で大変ですね。

——63年度の関東ジュニアの選手権予選が7月に行われますが、その申込数は1,368名となり、昨年を上回る参加者となりました。

——健全なスポーツとしてのジュニアのゴルフ、ですからあくまで学校教育の一環としての人間形成を主眼においた指導育成の任に当るわけで、参加者が多過ぎるということも運営面ではいろいろと問題があるのではないか。

——ご指摘の通りで、昨年度もかなり参加希望者がありました。予選競技を3日間でこなすとなれば、人数的には1,000名が限度ということで、一応出場資格も平均ストロークを1R105程度ということで受けました。

しかし、今年は明確に1R100ストローク以内と限定したのですが、それでもこのような大変な申込数となっています。

——参加選手の出身県を見ると、東京、千葉、埼玉、神奈川の順に集中していますね。その内訳は高校男子1,104名、女子が123名、中学男子が141名となっています。この比率を見るとやはり都市集中の傾向

が強いようですが、たとえば開催コースを増やして、地域別大会でもやらねば、実際の競技運営の面では円滑な推進が果せない、ということにはなりませんか。

——現実問題として競技自体を考えれば出来るだけ数を押さえたいが望ましいとは思います。しかし、KGA、高ゴ連（全国高等学校ゴルフ連盟）それにスポーツニッポン新聞社の三者共催で大会は進められており、それぞれが役割りを分担しているものの、その基本はジュニア教育、育成がテーマですから、競技の運営だけよい、というわけにも参りません。

春、夏に分けて行われるジュニア教室は、その点では大きな意義を持っているわけです。

——プロ協会から協力もあり、技術的な指導をトップアマたちと共に全体的な指導を行う。限られた期間内にルールやマナーについても講習する。大変なご苦労だと思いますが、問題はここまで数が増えてきますと実際問題として、理想的な指導、管理が出来ないのではないか、と心配する向きもありますが……

——地区別に予選会をやり、KGAは決勝だけを見て予選は高ゴ連やスポーツチ・サイドにまかせたらよい、という意見もあります。しかし、吾々委員会としては、あと2~3年は現状でなんとか乗り切ってみよ

うと決めております。しかし、将来的には種々研究せねばならない問題です。

——例えば月例方式で講習会を開き、ルールやマナーを教育する。実技の面では必ずしもコースでラウンドすることばかりに重点を置かず、練習場などを活用する。ここで一定の研修をクリアした者が、次の予選に参加出来るというようなステップを作る、いわば一種の教育システムを高ゴ連とKGAが一緒に考えてみてみるのもひとつの方法では……

——受講も大切なことで、現在は高ゴ連が或る程度マナーやルールの教育はやっています。また連盟が主催する春夏の教室でも、実技以上にマナー・ルールの教育には力を入れていますが、組織的にやるとなると現状ではまだ無理ですね。

JGAのジュニア育成委員会が今後積極的に対策を打ち出してくれるでしょうから、段階的にかつ具体的に問題は前向きに改善されることになるでしょう。

要は基礎から正しい指導と教育が必要だということです。

——お説の通りですね。大人の社会でもルール違反をする者がいても、それを注意する者がいない。間違って覚えたものでもそれが正しいと思い込んでいる人が多い。

——私は子供たちに山形晋さんと鍋島直泰さんのマッチ・プレーのときの出来ごとを機会ある毎に話をして聞かせています。

No.1ホールで鍋島さんはラフのマウンドの陰に打ち込んだ。しかし第2打でお互いがグリーンをとらえ、それぞれパーの同スコアであったと思っていたら「ラフでソールしたとき球が動いたから私は一打付加してボギーですよ」と鍋島さんが申告され、その勝敗は決まったというエピソードです。私は、ゴルフは自分自身が審判員であり、誰も見ていないからといってスコアを虚偽に申告することなどゴルファーとしては最低のマナー、自ら厳しく律するこれがゴルフの理念であると教えています。

——素晴らしいことです。子供たちは純粋ですから、正しい指導でゴルフとは何かを教育することが大切ですね。

ところで、いまだ親がつきそって参加してくる選

手が随分いるようですが。

——前々から過保護にならないようにと指導はしていますが、やはり自立精神を育てるにしても親自身が考え直してくれなきゃ駄目ですね。

最近は親のコース内の随伴は許可しないようにしています。

——親や兄姉がスターだからといって、その選手が特別扱いを受けて、マスコミの取材攻勢にあってる場面をよく見かけます。これなどはどう考えても行き過ぎとしか言えませんね。

——たしかに周囲の子供たちにとっては大迷惑なことだと思います。関係のない子供たちがそのザワメキの影響を受けるわけですから取材するプレスの関係者も充分配慮して欲しいものだと思います。

——TVや新聞でゴルフ社会のスターが次々と登場する、幼い子供たちもやがて自分も将来はそうなりたい、という夢を持つことは大変結構なことですが……。

——先輩がジュニア時代から華々しく頭角を表わし、やがてスターだらにのし上がって行く姿を見て、憧れるのは当然でしょう。

昔は親が子供にゴルフをすすめたのですが、今は子供たち自身がゴルフをやりたいという熱望する傾向が強くなっている、と聞きます。それだけ意識が変化して来たということでしょう。

——委員会は一人のスターブルのためにあるのではない。ゴルフ馬鹿にならないように……。

——そうです。吾々は将来の日本のゴルフ界の指導者として育つために相当の犠牲を払って努力している。委員の人たちの尊いボランティアを無にしていただきたくないというのが本当の気持ちです。

幅広い社会の理解と支援が高まれば、ジュニア教育も一層高度なものになっていくでしょう。

——欧米に比べて日本のゴルフ場関係者のジュニアに対する理解は極めて低い。せめてゴルフ場に所属するメンバーの子供たちに、月一回程度、コースを解放するということが出来るようになれば……。

——社会のすべてが商業イズムで動いている日本の環境で、それを望むことは大変むづかしいけど、練習場連盟なども積極的に協力の姿勢を打ち出してくれているので、その点では大変明るい将来を展望しています。

ゴルフ Q&A

Q-1 カジュアル・ウォーター内の紛失球

プレーヤーの球がバンカー内の水溜りの中に入った。深いところは30cmもあり、キャディーはもちろん、同伴ブレーサーと一緒に捜したが球はみつからなかった。同伴ブレーサー全員がこのカジュアル・ウォーター内に入ったという合理的な立証をしており、マークーが無罰でバンカー内からのプレーを進言したので、プレーヤーはホールに近づかず、かつ球がカジュアル・ウォーターに入った地点に最も近い箇所にドロップしてプレーをつけ罰なしでホールアウトした。この処罰は正しいでしょうか。

A-1 R25-Cに該当する。この様な状態のバンカーに入って、紛失したことが、マークー、同伴競技者の証言のある場合は、R25-C(ハザード内a, b)のいずれかで処置することになる。プレーヤーが、バンカー内でaの処置を選び、その状態から最大限の救済を受け、しかも、そのホールに近寄らず、かつ球が最後にその区域の限界を横切った地点に、もともと近い箇所にドロップしてプレーしたのであれば、正しい処置である。

Q-2 バンカーが完全に水浸しの場合

球がカジュアル・ウォーターで完全に水浸しのバンカーの中にある場合、プレーヤーはどのような処置がとれるのでしょうか。

A-2 プレーヤーは、その球があるままの状態でプレーするか、または次のいずれかの処置をとることができます。

(1)罰なしに、そのハザード内でカジュアル・ウォーターが最も浅く、しかも球の止まっていた箇所に最も近く、かつホールに近づかない所に球をドロップする。R25-1-b(a)(b)。

(2)1打の罰を課して、そのバンカーの外側で、ホールと、球のあった地点とを結んだ後方線上の箇所に球をドロップする。R25-1-b(a)(b)。

回答：河西幹一・日本ゴルフ協会ルール委員
関東ゴルフ連盟競技副委員長

Q-3 誤所からのプレー

予備グリーンのエッジに球があり。ホール向ってスタンスをとると片足が予備グリーンに乗ってしまう。そこでプレーヤーAは使用禁止区域なので、マークーBの了解をとって、ホールに近づかず、グリーン外で球が止まっている箇所に最も近い地点にドロップして、プレーを続けホールアウトにした。ところが同伴ブレーサーCから、予備グリーンに乗っている球なら拾い上げてグリーン外にドロップしなければならないが、スタンスが掛かるだけでは動かすことは出来ないのではないかとクレームがつき、誤所からのプレーだから、前の位置から打ちなおさないと失格になるのではないかといわれた。どちらの処置がいいのでしょうか。

この俱楽部の特別規則には予備グリーンに球が乗った際は、罰なしに球を拾い上げ、ホールに近づかず、ハザードを避けた前の位置に最も近い外側の地点を定め、それより1クラブブレンジス以内にドロップしなければならない。となっており「スタンスが掛かる」ときとは書かれておりませんでした。プレーヤーAは前記のように予備グリーンは使用禁止区域で、クラブやスパイクでグリーンを傷つけてはいけないとの配慮から球を拾い上げドロップしてプレーを続いたのです。

A-3 予備グリーンは日本特有のもので、ゴルフ規則に規定はない。R25の「目的外のグリーン」は、予備グリーンを指しているようにみえるが、『現にプレーしているホール以外のグリーン』と定義されているので、予備グリーンは「目的外のグリーン」には当らない。したがって、予備グリーンについて特別の規則(ローカル・ルール)がない場合、予備グリーンはスルー・ザ・グリーンとなる。したがって、ローカル・ルールに、「予備グリーンに球が乗ったときは罰なしで球を拾い上げてグリーン外に出しなさい」とだけ書かれているのであれば、スタンスがかかるても球の拾い上げは出来ない。よって、スルー・ザ・グリーンのインプレーの球の拾い上げとなり、同時にリ

プレースの違反となる。拾い上げて、たとえマークしたとしても、R18-2の違反としてストロークプレーでは一般的の罰として2打付加となり、マッチプレーではそのホールの負けとなる。球を拾い上げてドロップをした時点で球はインプレーの球となるので重大な違反がなければ失格とはならない。

Q-4 ローカル・ルールの統一を

ローカル・ルールについてですが、俱楽部によって、多少の違いはありますが、ほとんど同じように、「1. アウトバンズの境界は白杭で標示する」で始まり5~6のローカル・ルールがあり、最後に「上記以外はJGAゴルフ規則による」とあります。その中で問題となるのは、「予備グリーンに球が乗り、またはスタンスがかかるときは、罰なしに球を拾い上げホールに近づかず、ハザードを避けた前位置に最も近い外側の地点を定め、それより1クラブブレンジス以内にドロップしなければならない」の項です。俱楽部に

よって「またはスタンスかかるときは」が削除されているところがあります。最近のKGAが主催する競技では「スタンスがかかるときは」を入れてありますが、各俱楽部に統一するようご指導願えればと思いますが、規則の主旨はグリーン保護のためのものでしょうからその方がベターだと思います。いかがでしょうか。

A-4 この特別規則の目的は、あくまで予備グリーン保護のために制定されたものである。したがって、グリーン上だけのプレーの禁止だけではなく、コースのグリーン・カラー作りによっては、足がグリーンにかかるケースも多く生じる。そのまま打つと軽いピッキングぐらいならともかく、大きなクラブを使用するとスイングも大きくなり、そのため重心移動も大きくなり、グリーンを傷つけることもり得る。のために、グリーン保護のため、スタンスがかかる場合も、指摘のように特別規則に挿入した方が望ましいと考える。

競技委員会より

JGA競技委員会より、別記の通達がありました。KGAではこれを受け、今後の主催競技において実施することを競技委員会にて決定いたしました。すでに、俱楽部対抗決勝競技、関東シニア、グランドシニア競技の特別規則に挿入いたしております。

各地区連盟競技委員長殿

たしております。各俱楽部競技委員会におかれましてご検討下さい。

尚、最新JGA公認球リスト(63年6月25日現在)は、各俱楽部におとづけましたのでご確認下さい。

日本ゴルフ協会競技委員会
委員長 中井 文治

競技特別規則の「ラウンド中の練習」及び「使用球」の規定について

3月7日開催の競技委員会で結論をR&Aよりの回答待ちといたしました。本年度主催競技特別規則の「ラウンド中の練習」につきまして、R&Aの回答により下記のとおり6月の日本女子アマチュアゴルフ選手権競技より実施することと決定いたしましたのでお知らせします。

なお、「使用球」についても表現の変更を行いましたので合わせてお知らせします。各地区連盟におかれましては、「使用球」は直ちに、「ラウンド中の練習」につきましては対応しうる競技より実施されるようお願いします。

●ラウンド中の練習について

ラウンド中、プレーを終了したグリーン上及びその近くで練習ストロークを行ってはならない。(本項の違反は、次のホールに2打付加)。

●使用球について

使用球はラージボール(1.68インチ球)で、最新のJGA公認球リストに記載されたものに限る(本項の違反は競技失格)。

以上

昭和63年度 関東倶楽部対抗予選競技

「われらの倶楽部、われらの勝利」

今年の倶楽部対抗地区予選は、エントリー数227倶楽部、登録選手は4500名、出場選手1816名という史上最多数となった。それだけに各地区での闘いは熾烈をきわめた。その結果34倶楽部が見事、決勝進出をはたすことができた。各地区的優勝チームのキャプテンの喜びはひとしお——その歓声を特集した。

新潟地区

開催日：62年9月11日 薄曇
コース：大新潟カントリー倶楽部（三条コース）
紫雲ゴルフ倶楽部 阿部大爾キャプテン



倶楽部対抗競技も今年で丁度20回目。区切りのよい大会での優勝でございましたが、記録を振り返ってみると、なんと優勝は妙高CCで行なわれました12回大会以来、8年振りのことです。当時我がチームは、常勝紫雲の名を欲しいままに？しておりましたが、（実際12回中8回優勝しておりました）慢心した訳ではないのに、その後は2位3位が数回で、あととは屈辱的な成績しか残せず選手もこの数年、大分落ち込んでおりました。それが思わず？優勝でした。選手自身も実は半信半疑で、表彰式が済んでやっとじわじわ、静かな喜びが湧いてきたような訳でございます。

今回の勝因を挙げるとすれば、選手選考までの「過程」と、その中で作られていった「チームワーク」ではないかと思います。

それに加えて、春先から試合終了まで、選手をあらゆる面で励まして下さいました競技委員会の皆さん、選手の我が家を快く聴いて下さいました事務局の皆さんとの協力なくしてこの喜びは味わえなかつたと思います。心から厚く御礼を申し上げます。

長野地区

開催日：63年5月27日 晴
コース：松本カントリークラブ
穗高カントリークラブ 水城基次キャプテン



白雪を初夏までいただく北アルプス連峰、常念岳の山麓。「安曇野」を見下ろすここに穗高カントリークラブが誕生したのは16年前のことである。当時、ゴルフというものをよそ知らない人々の前に出現したゴルフ場は、地元の暖かい人情と団結力を土台上に異常な関心を呼び起こしたものだ。かくて我がクラブは満11年目の1983年9月、長野県史上はじめて、伝統ある第34回関東オープンゴルフ選手権大会の開催倶楽部となった。そしてこの年に倶楽部対抗決勝大会へ出場したが、なにせ初めての大競技、それに難しいコースでの練習不足ということ、不本意な成績に終った。それ以来私達は「積み重ねこそ上達の道」をモットーに、今まで練習を重ねてきた。その結果が16年目にしてようやく実現しました。競技当日の私の指示はただ一つ「スリーパットだけはするな」であった。その指示を各選手はよく守り、皆が一打を大切にした結果であった。終りに参加倶楽部選手諸兄の健闘に惜しみない拍手を送り、来年は追われる立場を自覚し、再び穗高カントリークラブに栄光あれと祈念し締筆する。

群馬地区

開催日：63年5月26日 晴
コース：ノーザンカントリークラブ群馬
赤城ゴルフ場
太田双葉カントリークラブ 池田保久キャプテン
上州群馬地区予選会は、国定忠治で有名な赤城山の山麓、朝霞と鳥の声に歓迎され、ノーザンCC赤城



コースにて開催された。

わが太田双葉チームの目標は2年連続優勝と、4回目の決勝大会進出、選手団を一段と強くして戦いに臨んだ。

コースは距離も適当にあり、メンタルなレイアウトである。そのためか選手が予想していた程スコアが伸びず、後半の追い上げを期待せざるを得なかった。しかし、最終グリーンに上がって来る選手の顔色はいま一つさえない。一時は悲観的になってしまった。

激戦は終盤にまでもつれ込み、昨年の余裕(14差)ある観戦とは大違いとなつた。

そんな緊迫の中、最後の選手が18番グリーンへ上がって来た、4本指が立つ。出迎え全員の歓声、4オーバー76、今回も見事メダリスト。このスコアのおかげで混戦から一番目に抜け出し、伊香保国際CCチームに3打差つけて念願の2年連続優勝をする事が出来た。勝因は、各選手の健闘はもちろんだが、特に団体競技の場合は、選手の精神的な面がプレーに表れ、その結果がチーム成績を左右するものだ。それがスコアの良し悪しにつながる。わが太田双葉チームが自慢とする『チームの和』これこそ最大の勝因であったことを特筆したい。

栃木第1地区

開催日：63年5月30日 晴後雷雨
コース：あさひヶ丘カントリークラブ
宇都宮カントリークラブ 福永十一キャプテン



芳賀カントリークラブである。

コースは、雄大、その雰囲気は明るく、また各ホールも実にタフに造成されており、プレイヤーの挑戦欲をかきたてる。この素晴らしいコースでの日頃のラウンドが、栃木第一地区予選会での優勝に繋ながったものと思う。優勝したことはキャプテンとしてうれしい。しかし、それにもましてうれしかったのは「芳賀」の選手は、マナーもいいし、ゴルフも上手い、立派だね」と、数多くの他倶楽部の友人から話題に挙げられたことだ。これもまた、優勝に結びつく原動力であったと思っている。

選手一同は、今後、益々心・技共に研鑽し、本年以上の成績を残せるよう頑張って行き度いと念願している。

栃木第2地区

開催日：63年5月30日 晴後雷雨
コース：あさひヶ丘カントリークラブ
宇都宮カントリークラブ 安中房司キャプテン



倶楽部対抗、年に一度めぐりくるアマチュアゴルフの祭典である。二月選手決定、チームの結団式と、連続優勝に向けての活動が始まる。選手はここ数年不動のメンバーである。決勝戸塚CC進出を、相言葉に、きびしい練習ラウンドが始まる。しかし決勝、そして、もう一つの目標は地区予選での優勝である。

昭和52年度 関東俱楽部対抗競技

練習とはいってA、Bクラス共に、きついラウンドによく耐えてくれた。当日は微風快晴、続々と各俱楽部代表選手が集まり笑顔での挨拶、いつもながらのほほえましい風景であるが、ピーンとはりつめた重い空気が流れる。

1番ティーでのトラブルは予想以外に多く、行先に一抹の不安がよぎる。ハーフを上って来る選手のスコアが遂一手許すとぞいてくるが、計算した数字がなかなか来ない。待つ身は選手以上にきびしい。寒い日、風の強い日、あれだけの練習に耐えて来た選手達、午後の9ホールは何とか通常のスコアで上ってくるよう祈るようにしてまつ。一喜一憂している間に全選手ホールアウト、2位に1ストロークの僅差で連覇を遂げた。私は各選手に堅い握手を求め、きびしい練習がやっと実を結んだ。「よくやってくれた、有難度う」とこの上ない感激にひたつたのである。

「われらの勝利」それは厳しい練習と、伝統のチームワークの勝利であった。

茨城第1地区

開催日：63年5月31日 晴

コース：桜ゴルフクラブ

富士カントリー笠間俱楽部 大津好問キャプテン



わが俱楽部は、関東平野の東部、笠間にあり、商売繁栄で知られる笠間稻荷の東側丘陵地帯に位置する。27Hを有し、距離もたっぷり、戦略的に頭脳プレーが必要であり、コースレート、73.2と高い。この難コースてきたえられた研修会員38名の中から選手を選考する。初参加は7年前、その時は大ぜいのギャラリー、大応援団に圧倒され、惨敗したものだ。しかし、1年1年その雰囲気にも慣れ、今年は折しもわが俱楽部開場10周年、なにがなんでも決勝

進出の覚悟で臨んだ。幸い、予選会場の桜ゴルフクラブはフェアウエイも良く整備され、グリーンも笠間に良く似たこともある、選手には一層の自信がわいてきた。しかしながら勝負は終ってみなければわからないもの。最終組がスコアーカード提出しても上位入賞が混沌とした接戦であった。わがチームの平均打数74.5は総評で松野競技委員長に「過去最高の成績」とおほめの言葉をいただいた。これを機に来年も上位入賞を目指し精進したい。

茨城第2地区

開催日：63年5月30日 曇

コース：日立ゴルフクラブ

水戸グリーンカントリークラブ 野内宏一キャプテン



わが俱楽部が関東俱楽部対抗競技に初参加したのは、昭和52年度「セントラルGC」のことであった。以来毎年参加してはいるものの、成績はいま一つ芳ばしからざるものであった。代表選手達の努力とチームワーク、それに加えて俱楽部及び、関係各位の熱意と努力のおかげで、初優勝、県代表の席を射止める事が出来た。

地区予選の競技委員長を務めたわが俱楽部の海老原理事長へ、花を添えることにもなった。二重の喜びである。選手諸君の健闘を称えたい。そして今度は、この感激に酔いしれることなく、技術偏重に走ることなく、ルール、マナーを良くわきまえた眞のシングルプレーナーたれと、選手諸君に望みたい。

埼玉地区

開催日：63年5月31日 晴

コース：熊谷ゴルフクラブ

岡部チサンカントリークラブ 毛利 好キャプテン



わが岡部チームは、数回におよぶ選手選考会を経て選手団を編成し挑んだ。過去に地区予選三連覇という輝やかしい栄誉を得たものの、昨年は思いがけず苦杯を嘗め、会員雪辱の意気に燃えていた。

普段のゴルフとは違い、本競技は団体戦である。1ストロークによって、奈落の底につき落とされてしまう。これは出場選手にとって、相当のプレッシャーだ。しかし、今年の選手団は、本当に良く戦ってくれた。私がキャプテンとして、常々口にしてたことは、「1つ1つのショットを大切にしよう!」「最後まで諦めるな。チャンスは必ずある」という注意である。選手たちは、ある時は大胆に攻め、ある時は守りに徹し、並みいる強者の同伴競技者に臆することなく、実力以上のものをしてくれた。その結果が当予選会での栄誉となつたことと確信する。

わが岡部チームは、高度技術を要する岡部コース、距離のたっぷりある美里コース、どんな状況にも対応できるコース設計のもとで、技術を磨き、ますます鍛錬を重ねていくつもりだ。

千葉地区

開催日：63年5月30日 曇後晴

コース：房総カントリークラブ

袖ヶ浦カンツリー倶楽部 野本俊夫監督



参加38チームが決勝進出を賭けての予選競技に優

勝を果たした瞬間、私は何故か過去の俱楽部対抗の数々の場面が脳裏をよぎった。

私自身が補欠選手ながら初出場した昭和40年の武蔵笠井、41年に我孫子チームに惜敗して二位となつた戸塚、当時は年齢別も無く36Hの長丁場であったこと、いくら努力しても予選を通過できず失望落胆の繰り返してあった一時期、鶴舞での予選一位の勢いを駆って霞ヶ関で初優勝を果たした昭和58年、雨中の戦いを克服し優勝を獲得した61年の茨城等々——この23年間で初めてクラブを置いての出場で臨んだ緒戦を終え、感無量の心境である。

わがチームは団体戦であるこの競技に際して、伝統的に選手団の和を最重視して、技術の練習に優先したチーム作りに取り組んできた。俱楽部の名誉を担い、少なからぬ費用をかけて出場するからには、チーム内から不協和音を発生させてはならないし、チームの和こそが好い結果を生むものと確信して臨んだ。

決勝進出を果たした今日、選手諸君の顔には決勝競技への気負いは全く見られず、淡々とした表情で予選をトップで通過したことを素直に喜んでいる様子だ。だがその胸中には、『戸塚で三度目の優勝を俺達の手で』の熱い思いが次第に膨らんでいるのが私には痛い程良く判る。

東京地区

開催日：63年6月3日 大雨強風

コース：立川国際カントリー倶楽部

立川国際カントリー倶楽部 松井一彦監督



わが俱楽部は一昨前に続き二回目の優勝を飾り、予選開催倶楽部としての面目もほどこすことができた。

今年は13年ぶりの予選ホストということで、倶楽

部を挙げてコース整備等の対応に燃えた。6月3日の競技当日は、終日雨という相憎の天候で、いささか気勢を殺されたものの無事終了し、しかも予定通り優勝することができて、漸く肩の荷をおろすことができた。

3年前トップクラスが大挙Aクラスに進んだので選手の陣容は充実しているが、狙って優勝することは意外にむつかしいものだ。昨年は優勝チームと僅か1打差で3位に立った。今年は雨のせいか、不満なスコアながらA組3名とB組の若い2名は70代で上って来た。B組の一名が予想外の不調に陥っているだけにB組最後の選手が頼りとなり、最終組の青梅GCの選手とのせり合いとなった。K選手は堅い粘りのゴルフで定評があるにも拘わらず前半は42も叩いているのに対し、相手選手は36で折り返しており、このままで完全に逆転かと思われたが、後半善戦し79と77の二打差までつめてくれて、当俱楽部の優勝が確定した。

本当にゴルフは最後まで判らないものである。

神奈川地区

開催日：63年5月31日 晴

コース：東名厚木カントリー倶楽部
東名厚木カントリー倶楽部 曽根順之助キャプテン



わが倶楽部の選手選考は公正に厳しく行なう。その母体となるのは、8年前に結成したシングル研習会である。現在47名の会員がおり、各地区から選ばれた役員6名がその運営に当っている。毎月第3木曜日を研習日とし、年12回、そのうち7回の成績を取り、選手候補として倶楽部競技委員会に上申し決定する。研習会の目的は技量の研鑽、会員相互の親睦と信頼である。プレー前に会長が当日の指示をし、例えば煙草の吸殻、ティグランドの雑草取り、とい

ったことを実行する。わが倶楽部の初出場は57年の葉山CCであった。この年初出場初優勝をなしとげ、61年津久井湖CC、泰野CC、今回東名厚木CCと三連覇を達成する事が出来た。このことは関係者各位の御理解と御支援の賜ものと、深く感謝申し上げたい。同時に私ども研習会としてもこの栄誉を末長く維持する為、尚一層の努力と精進を重ねて行く所存である。

静岡地区

開催日：63年5月31日 晴

コース：静岡カントリー浜岡コース
静岡カントリー浜岡コース 川崎泰司キャプテン



競技当日は快晴微風のゴルフ日和であり、コースコンディションも最高であった。わが倶楽部は過去一度だけ予選を通過したことはあるが、優勝するなんて誰しも予想していなかった。ホームコースで開催されるのだから出来れば3位くらいにはと思っていたが――。

刻々入ってくる情報によるとBクラスの2名の選手がアンダー、1名がパープル、残る1人もかなりいい線でとのこと。このままラウンドしてくれれば……ところが結果は上位3選手のスコア合計「マイナス！」であった。4人目(※印)の選手のスコアも79という立派なものだった。Aクラスはスタート前から全員80を切ることを目標にした。3選手平均77.6ストロークであった。AB6選手の平均ストローク「75」という予想だにしなかったスコアであった。倶楽部対抗は団体競技である。個人の技も勿論だが、関係者全員のチームワークの大切さをいつも痛感させられる。終りにご声援頂いたクラブ関係各位に深く感謝申しあげたい。そして、倶楽部代表選手の皆様、来年もまた元気に再会いたしましょう。

昭和63年度 関東倶楽部対抗決勝競技

●開催コース 戸塚カントリー倶楽部 Aクラス 東コース6,584ヤード(高麗)パー72
●開催日 6月28日 雨後晴 Bクラス 西コース7,066ヤード(ベント)パー72

ルポ・宮元 昭雄 (KGA広報委員)

写真・深井 昌司 (KGA広報委員)

笠原 貞夫 (KGA広報委員)

誇りと名誉をかけて

予選参加227チーム、選手のエントリー数4500名、この数字、史上最高のものである。今年も倶楽部の名誉をかけて34倶楽部、272名の精銳たちが6月28日戸塚カントリー倶楽部に集まって華々しい激戦が展開された。

大会の方式がA・Bクラスに分かれて争うようになって9年目、とくに今年は山梨県からグリーンパレイが初参加という、事実上の関東一を競うにふさわしい大会となつた。



初参加のカントリークラブグリーンパレー

前夜の大雨は止ったがコースの状況は決して良好ではなかった、それでも各選手は午前8時に一斉にスタート。水しぶきを飛ばしながら18ホールの熱い闘いに挑んだ。

「チーム戦力が拮抗して最後まで優勝チームが予想できない」と嘆く関係者たち、それでも自軍選手が一人そして二人と戦い終えて上ってくる度に、そのスコア集計に走り回る姿があわただしく目にとまる。「今日は74がバーでしょう」と語っていた阪田選手(袖ヶ浦)も思ったほどスコアが伸びない。それでも午前を折り返したところで袖ヶ浦がトップを走る。逆に昨年の王者千葉カンは出遅れ気味だ。

選手の新旧交代が進み、どのチームも一発逆転のチャンスはある。一差が栄光につながる熾烈な展開、一喜一憂する応援団、今年も悲喜こもごもの光景を会場のあちらこちらで目にした。

各地区大会をトップで決勝にのぞんできたチーム



の戦力はさすがに粒崩いた。水戸、富士、笠間、宇都宮、大熱海、総武そして東名厚木と。かつての強豪チームが早々に戦列から消えていく中で、これらのチームによる上位争いは激しい。スコア・ボードに群がる応援団の面々、すでに90%の選手が戦いを終え、優勝は微差で袖ヶ浦か、とその騒ぎが一段と高まるなかで水戸の急上昇、大熱海、宇都宮とのせり合いが続く。「前半の貯金をなんとか……」とハッパをかける野本袖ヶ浦監督の目が血走る。激しいデッドヒートだ。そして東名厚木の残り2名の選手がアッという間に好スコアで追い込み、トータル463で袖ヶ浦と同点、規則によりBクラスの4位のポイントで東名厚木に初の凱歌が挙った。

『これでやっと橋を千葉県から神奈川県に持ち帰れます』と、曾根監督の眼が感激でうるむ。

一方敗軍の将兵を語らずの心強さという野本監督、『1ストロークを大切にするゴルフをもう一度勉強してください』。初参加の樋口監督(グリーン・パレイ)は『成績はともかく満足でした。寡聞気にのまれ、感激したが来年もやって来ます』と初陣の弁に好感が持てた。かくして63年度大会も数々の話題を残して無事に終った。

最後に毎年のことながら、関催倶楽部の諸氏の努力には頭が下る。ことさら今年のホスト倶楽部戸塚のコースメンテ、会場設営は見事なものであったことを記しておきたい。

昭和63年度 関東倶楽部対抗予選競技成績表

地区別 順位	東京 (立川国際)		埼玉 (熊谷)		千葉 (房総)		神奈川 (東名厚木)		茨城第1 (桜)		茨城第2 (日立)	
1	立川国際	465	岡部チサン	460	袖ヶ浦	455	東名厚木	455	富士・笠間	447	水戸グリーン	475
2	青梅	468	武藏	465	千葉	463	相模原	456	水戸	453	日立	479
3	東京五日市	476	嵐山	465	習志野	468	湘南シーサイド	462	セントラル	456	江戸崎	484
4	武藏野	478	坂京	468	総武	469	平塚富士見	467	龍ヶ崎	463	茨城バシフィック	486
5	GMG八王子	480	鶴舞	469	葉山国際	464			茨城	465	大利根	490
6	東京国際	481	高根	473	中山	470	小田原湯本	470	アシア下館	465	筑波	496
7	桜ヶ丘	484	高日	475	東千葉	475	横浜	473	扶桑	468	東筑波	497
8	東京よみうり	487	川越	476	銚子	475	秦野	473	麻生	472	霞台	498
9	府中	489	狭山	478	南總	476	大相模	475	桜	472	土浦	498
10	多摩	489	熊谷	479	八幡	477	津久井湖	477	白帆	474	取手	504
11	八王子	496	鴻巣	482	我孫子	478	伊勢原	482	宍戸国際	476	那珂	512
12	相武	501	飯能	483	新千葉	479	中津川	482	浅見	478	フレンドシップ	513
13	小金井	505	入間	484	鷺之台	479	磯子	485	ザ・レイクス	478	常陽	517
14	赤羽	522	霞ヶ関	485	藤ヶ谷	480	川崎国際	485	大洗	479	クリーンエイト	526
15			廣済堂埼玉	486	千葉スプリングス	480	小田原	486	ダイヤグリーン	507		
16			浦和	487	姉ヶ崎	481	大秦野	486				
17			ノーザン鎌ヶ原	489	千葉廣済堂	484	レインボーワーク	493				
18			越生	490	成田スプリングス	485						
19			飯能パーク	491	千葉国際	486	湯河原	496				
20			秩父国際	501	一の宮	487	箱根	498				
21					上総富士	487						
22					房総	489						
23					千葉橋	490						
24					紫柏	492						
25					木更津	495						
26					東京湾	499						
27					真名	501						
28					長太郎	501						
29					千葉新日本	502						
30					長南	502						
31					加茂	505						
32					国際空港	507						
33					御茶ノ水	509						
34					京葉国際	511						
35					鹿野山	517						
36					鎌ヶ谷	520						
37												
38												
個人位	田島茂 (相武)	堤久夫 (川越)	蓑田孝男 (南総)	金本浩明 (横浜)	中村清 (水戸)	山本善久 (茨城バシフィック)						
A		73	71	73	73	71	77					
B	和田雅英 (東京五日市)	山口現朗 (武藏)	大野勝夫 (八幡)	堀越榮治郎 (相模原)	奥延通康 (茨城)	金容浩 (日立)						
		71	70	73	67	71	73					

18ホール・ストロークプレー(参加227チーム・1,816名) 5月26,27,30,31 6月3日		62年9月11日									
桟木第1 (杉ノ郷)		桟木第2 (あさひヶ丘)		群馬 (ノーザン赤城)		静岡 (静岡・浜岡)		長野 (松本)		新潟 (大新潟・三条)	
芳賀	474	宇都宮	471	太田双葉	486	静岡・浜岡	450	穂高	474	紫雲	472
杉ノ郷	481	南摩城	472	伊香保国際	489	東名	452	グリーンパレイ	475	新津	474
矢板	481	東宇都宮	475	美野原	493	大熱海国際	460	信州丸子高原	492	大新潟・三条	477
那須小川	484	日光	475	草津	495	函南	461	長野	494	日本海	482
鳥山城	484	唐沢	476	桐生	496	浜松豊岡国際	462	松本	500	上越国際・米山	488
柄木	485	都賀	477	伊香保	499	静岡・袋井	465	諏訪湖	502	フォレスト	489
鹿沼	486	足利	477	ノーザン群馬	507	富士チサン	467	信州塩嶺高原	503	石打後楽園	491
鬼怒川	491	あさひヶ丘	478	ロイヤルオーク	507	富士士	468	望月	505	新潟	493
紫塙	493	鹿沼	484	甘楽	510	静岡・島田	469	月田上	494	湯田上	494
広陵	493	宇都宮国際	485	鳳凰	510	南箱根	469	長野国際	505	長岡	497
皆川城	494	阜月・佐野	486	サンコー	515	朝霧ジャンボリー	473	川中島	512	大新潟・出雲町	500
関東国際	503	鶴	490	関越ハイランド	519	富士平原	475	千曲高原	520	上越国際・十日町	503
佐野	507	阜月・鹿沼	490	上毛森林	520	御殿場	477	ヴィラ夢科	521	笛神五頭	507
下野	507	那須チサン	494	赤城国際	521	浜松シーサイド	479	佐久平	522	妙高	512
鳳月	509	塩原	495	妙義スプリングス	523	藤枝	484	三井の森夢科	523	津川	514
藤和那須	515	新宇都宮	520	上毛高原	527	富士小山	485	サニーエ	531	松ヶ峯	534
千成	515	柄の木	531	月夜野	528	伊豆らやま	488				
大平台	520	チサン黒羽	532	高崎KG	529	天城にっかつ	492	伊東	502		
						伊愛	505				
						太陽	508				
小林淳一 (関東国際)	76	塩谷幸朗 (日光)	74	長谷川弘志 (太田双葉)	76	加部嗣男 (東名)	71	樋口昇二 (グリーンパレイ)	77	浅野博喜 (紫雲)	76
得能三郎 (柄木)	75	藤原正己 (阜月・佐野)	74	吉田隆光 (ロイヤルオーク)	71	佐々木清士 (静岡・浜岡)	70	藤村文夫 (穂高)	73	白源正 (大新潟・三条)	73

優勝 東名厚木カントリー倶楽部 得点463

氏名		アクト	イン	合計	順位
A クラス	大 石 異一	41	41	82	
	金 子 房一	39	45	84	
	田 辺 道三	37	38	75	ベスト6
B クラス	大 優 大	42	42	84	
	古 星 浩	34	38	72	
	原 裕 雄	38	38	76	1位
(チーム平均ストローク : 78.38)					

昭和63年度 関東倶楽部対抗決勝競技成績表

昭和63年6月28日(火) 晴 於:戸塚カントリー倶楽部

●Aクラスメダリスト

清水博志 総武カントリークラブ

71(36・35)

●Bクラスメダリスト

古屋 浩 東名厚木カントリー倶楽部 72(34・38)

2位 抽け浦カントリー倶楽部 得点463

氏名		アクト	イン	合計	順位
A クラス	佐久間 敦二	37	41	78	
	山野辺 邦夫	38	36	74	
	相馬 久男	41	37	78	ベスト6
B クラス	鈴木 葉治	38	41	79	
	水澤 哲男	36	38	74	
	林 安雄	39	45	84	2位
(チーム平均ストローク : 78.25)					

7位 総武カントリークラブ 得点472

氏名		アクト	イン	合計	順位
A クラス	大林 仁	39	41	80	
	神山 弘	38	42	80	
	酒井 真司	36	35	71	ベスト6
B クラス	橋本 謙	43	45	88	
	前田 敏夫	42	40	82	
	田中 作郎	40	40	80	472
(チーム平均ストローク : 80.00)					

12位 鶴舞カントリー倶楽部 得点477

氏名		アクト	イン	合計	順位
A クラス	橋 佐 敏	40	37	77	
	島 田 真 三	43	36	79	
	栗 藤 勝 夫	43	45	88	ベスト6
B クラス	前 次 順	42	40	80	
	小 小 内 滋	39	43	82	
	小 田 忠 悠	46	42	88	7位
(チーム平均ストローク : 81.63)					

3位 水戸・ゴルフ・クラブ 得点468

氏名		アクト	イン	合計	順位
A クラス	根 収 知	44	40	84	
	田 口 善 三 郎	40	39	79	
	中 村 清	37	38	75	ベスト6
B クラス	富 田 一 義	38	40	78	
	小 河 原 正 直	45	41	86	
	山 西 宏 昭	43	39	82	3位
(チーム平均ストローク : 79.75)					

4位 大熱海国際ゴルフクラブ 得点471

氏名		アクト	イン	合計	順位
A クラス	高 梶 知	44	40	84	
	田 口 善 三 郎	40	39	79	
	富 田 一 義	38	40	78	ベスト6
B クラス	小 河 原 正 直	45	41	86	
	山 西 宏 昭	43	39	82	
	根 本 大 浩	41	36	77	4位
(チーム平均ストローク : 80.63)					

5位 宇都宮カントリー倶楽部 得点472

氏名		アクト	イン	合計	順位
A クラス	佐々木 寶 堂	37	42	79	
	塙 谷 和 正	40	39	79	
	二 隆 勉	37	37	76	ベスト6
B クラス	夏 目 利 夫	43	44	87	
	秋 木 勝	36	38	74	
	井 瑞 和 生	40	38	78	4位
(チーム平均ストローク : 80.63)					

6位 富士カントリー笠置倶楽部 得点472

氏名		アクト	イン	合計	順位
A クラス	小 山 孝 士	37	38	75	
	大 村 功 一	42	43	85	
	神 宮 功 右	39	41	80	ベスト6
B クラス	駒 場 宏 之	37	38	77	
	小 森 英 輔	40	41	81	
	森 田 浩	34	42	76	5位
(チーム平均ストローク : 79.88)					

7位 太田双葉カントリークラブ 得点477

氏名		アクト	イン	合計	順位
A クラス	鈴 木 昌 司	46	40	86	
	河 内 静 間	38	42	80	
	大 津 好 問	43	39	82	472
B クラス	青 木 忠 雄	36	40	76	
	黒 羽 宗 之	39	39	78	
	伊 藤 隆	40	42	82	6位
(チーム平均ストローク : 80.63)					

8位 芳賀カントリークラブ 得点476

氏名		アクト	イン	合計	順位
A クラス	佐々木 善 堂	37	42	79	
	塙 谷 和 正	40	39	79	
	二 隆 勉	39	37	76	ベスト6
B クラス	夏 目 利 夫	43	44	87	
	秋 木 原 正	36	38	77	
	根 本 雄 一	42	41	83	476
(チーム平均ストローク : 81.00)					

9位 芳賀カントリークラブ 得点476

氏名		アクト	イン	合計	順位
A クラス	高 松 英 明	37	36	73	
	工 藤 伸 三	39	40	79	
	鶴 木 克 幸	36	35	71	ベスト6
B クラス	高 橋 伸 三	43	40	83	
	大 木 勝 也	42	41	83	
	根 本 信 平	43	39	82	476
(チーム平均ストローク : 80.00)					

10位 武藏カントリークラブ 得点477

氏名		アクト	イン	合計	順位
A クラス	高 松 英 明	37	36	73	
	塙 谷 和 正	39	40	79	
	二 隆 勉	37	37	76	ベスト6
B クラス	高 橋 伸 三	43	40	83	
	大 木 勝 也	42	41	83	
	根 本 信 平	43	39	82	477
(チーム平均ストローク : 80.63)					

11位 太田双葉カントリークラブ 得点477

氏名		アクト	イン	合計	順位
A クラス	青 田 嘉 彦	41	41	82	
	河 井 達 善	42	43	85	
	小 沢 静 間	38	39	77	ベスト6
B クラス	中 岩 弘 志	43	40	83	
	坂 井 上 伯 夫	40	38	78	
	長 谷 川 弘	45	43	88	477
(チーム平均ストローク : 80.50)					

12位 立川国際カントリー倶楽部 得点482

氏名		アクト	イン	合計	順位
A クラス	森 茂 男	39	44	83	
	鹿 島 威 二	40	39	79	
	中 岩 正 二	41	40	82	ベスト6
B クラス	森 井 尚 男	47	42	89	
	平 野 正 義	43	40	86	
	新 井 康 之	45	43	88	482
(チーム平均ストローク : 81.63)					

13位 矢板カントリークラブ 得点487

分科委員会

63年度 第1回競技委員会議事録

日 時 昭和63年3月23日(水) 15時
場 所 日本出版クラブ会館
出席者 古賀委員長、新井昌男、新井安寿、
土井、平田、平山、本多、市川、
川島、小山、楠木、渕、野口、大
出、大久保、大島、折井、織戸、
関谷、山村、田辺、山田、山本、
山崎博精、山崎宣彦、山崎滋男、
矢野、各委員

—決議事項—

古賀委員長挨拶の後、新任委員の紹介と退任委員の報告がなされ、15時10分議事に入る。

1. 63年度運営方針

古賀委員長より、委員各位に前年同様の協力を得、かつ、「和」をもって本年の各連盟主催競技を円滑に運営したい旨の方針が示された。

2. 班編成および班長の件

委員長より、退任・新任の2人の委員を除いては、特に大きな入れ替えはなく、昨年同様12班12名ずつの3班編成との説明があり、全員これを承認した。

なお、一覧表に基づいて、連盟主催競技の委員長、副委員長の了解を得た後、各班ごとに競技の担当を振り分けることを決定した。

開催コースの所在地により、班別担当数に多少のアンバランスが生じるが、やむをえないことであり、必要に応じて他班へも協力することを確認した。また、特にジュニア選手権(予選ノーザン錦ヶ原)については、田辺委員(ジュニア委員会兼務)から全競技委員最低1日は出席して欲しい旨の強力な要請がなされた。

次に、折井委員より、各県連盟主催競技における山梨県のチームの参加について質問があり、今年は規定により長野ブロックに参加させることを事務局より説明、全員了承した。

3. 各県俱楽部対抗予選・競技委員長、副委員長の件

競技委員長はこれまで通り、各都県常務理事、理事にお願いする。副委員長については、開催コースからも選任願う。必要に応じて連盟競技委員会を委嘱する旨、委員長より説明、全員これを了承した。

また、選手として参加する以外は、

他地区でもなるべくご協力いただきたいと重ねて要請がなされた。

4. 連盟主催競技実施規定の件

机上配布資料を検討の結果、以下の事項を確認した。
①実施規定の中で、昨年度と比べて変更があったのは、関東シニアにおいて、予選が2ブロックから3ブロックになったため、各ブロックの通過が上位40位タイまでとなつた点のみである。
②平山委員より、関東アマチュア予選のブロックの振り分けについて質問が出たが、原則としては所属俱楽部の近くで、ハンディキャップ別に振り分ける旨、委員長より説明があった。

5. 各競技担当班の決定

別紙資料の通り決定した。

6. 競技細則について

①ローカル・ルール原案の件

本年度も、JGA競技委員会作成のものをひな型とし、開催俱楽部のコース事情に併せて条項を加除することを確認した。

②参加資格年齢の件

現行、競技によって異なるが、「競技当該、規定の満年齢に達する者」という参加資格では、1)の翌日に誕生日の人は参加できない。
2)年度によって開催日が異なり不公平が生じる。

等の矛盾が生じ、該当者の間に不満の声が出ていた。従って、当委員会として、次記の改善案をJGA競技委員会に提案することに全員賛意を示した。

64年度より、すべての競技の参加資格年齢は「その年に規定満年齢に達する者」とする。

③競技使用球について

現行では、関東オープン・月例競技の2競技のみラージとしているが、今年から、関東アマ・女子・俱楽部対抗・ジュニア・シニアの各競技はラージ、グランド・シニアだけはスマールも可とすることを決定した。

7. その他

山崎宣彦委員から提案のあった①女子シニア競技②50歳代の競技について討議を行なった。

平田委員より、女子の競技を設ける

前に女子のハンディキャップやコース・レートの見直しが必要ではないかといふ意見が出され、新井安寿委員(コース・レート副委員長兼務)は、「コース・レート査定を希望する俱楽部が多く、なかなかこなしきれないのが現状である。それに加えて、女子用・赤マークからのコース・レートをすべて行なうのは困難である。しかし、特に必要かつ希望のあるコース(谷越え等)については、今年度コース・レート委員会として検討してゆきたい」との説明がなされた。

また、山田委員(ハンディキャップ委員長兼務)より「現在は男子と同じティ・マークにてプレーした際のカードのみを使用している。年々女性ゴルファーの増加する中でハンディキャップ委員会でも女性のハンディキャップについて検討してゆきたい」との説明があつた。

以上の発言をもとに提案の2つの競技については、今度検討を重ねていくことを確認した。

8. 各班別打ち合わせ

各班別に、班長、副班長を中心に各々競技の打ち合わせの分担、日程の決定等話し合われた。

63年度 第2回競技委員会議事録

日 時 昭和63年6月15日(水) 17時15分

場 所 中山カントリークラブ

出席者 古賀委員長、河西副委員長、新井昌男、新井安寿、土井、平田、平山、市川、北村、紅葉、渕、野口、野本、大出、大島、関口、関谷、山田、山本、山崎宣彦各委員

—討議及び決議事項—

1. 63年度後半競技実施規定の件

「関東シニア」「関東グランジニア」競技の実施規定のうち、下記の事項を変更した。

①指定練習日については記載せず、「組み合わせ表」発送時に通知する。

②希望ブロックについては、一切認めない。

2. 64年度主催競技の件

①「関東アマ予選」は現行5ブロック制であるが、エントリー増加のため(63年度は854名)6ブロック制とし、開催俱楽部の増、決定をコース選定委員会に要請する。

②関東俱楽部対抗地区予選のうち、千

葉県は現行1ブロックであるが、参加俱楽部数増加のため2ブロック制をとることを決定した。

これにより予選ブロック数は14となり、決勝出場俱楽部は35(決勝開催俱楽部を含む)となる。

③63年度より「日本アマ」は4日間72ホール・ストローク・プレーと変更されたが、「関東アマ決勝」については、諸般の事情から、現行どうり3日間72ホール・ストローク・プレー(最終日2ラウンド)で行なうことを確認した。尚、月例競技においても、今年度より、従来の36ホール競技(6月、7月、8月度)を、18ホールに変更することを月例委員会にて決定。

3. 競技特別規則について

先般、JGA競技委員会において検討、決定されたルール改正について、下記のことを確認し変更することを確認した。

①ラウンド中の練習について

ラウンド中プレーを終了したグリーン及びその近くでの練習ストロークを行なつてはならない。(本項の違反は次のホールにして2打付加)。ただし、本項は63年度「関東オープン」以後の競技より実施する。

②使用球について

使用球はラージボール(1.68インチ球)で、最新のJGA公認球リストに記載されたものに限る。(本項の違反は競技失格)

本項は、63年度関東女子決勝競技より実施した。また、「グランジニア」の使用球についても本項を適用することとした。

3. 学生申込者の所属について

学生の競技申込は、学連、加盟俱楽部のいずれかにより行われているが、その選択は申込者にまかされ、競技によって変更、使い分けされていることが多かった。今後は年初にその所属を明確にし、途中の変更は認めないとした。

また、前年度競技において獲得した出場権は、その競技時の所属地名においてエントリーさせることを確認した。

63年度 第1回ハンディキャップ委員会議事録

日 時 昭和63年3月24日(木) 正午

場 所 JGA会議室

出席者 福田委員長、古賀、渡辺副委員長、千

賀、小林、桑原、松本、吉沢、安達、三宅、宮元、寺田、佃、鶴島、植松、山田、横内各委員

—討議及び決議事項—

1. 今年度活動方針について

福田委員長より次記の方針が示され、活発な意見交換がなされた。

昨年度より開催している各県毎のハンディキャップ委員会長会議を今年度も積極的に開催する。各委員は県の中心になり、委員会議の開催や、JGAハンディキャップの促進に努めもらいたい。また、JGAハンディキャップ発足10年を機にコース・レートの問題も含めて、より完全なJGAハンディキャップの確立を目指し、USGA、R&Aの直訳でなく、日本の改訂した規定の整備、検討、研究を行ないたい。

2. 各県ハンディキャップ委員会について

イ、栃木県ハンディキャップ委員会長会議

開催後、各俱楽部より積極的な問い合わせがあり、実際にグリーンシステムに移行した俱楽部もあった。

ロ、千葉県ハンディキャップ委員会長会議

「千葉県ゴルフ協会」より提出された質問に対して、回答書を作成中であることを報告した。

ハ、JGAハンディキャップに対する、俱楽部ハンディキャップ委員長、支配人の声

出席委員より下記の発言がなされた。JGAハンディキャップは、連盟主催競技に参加する(ごく少数の会員)ために必要なだけ、会員の親睦を主とする俱楽部競技には必要ない。

申請書を連盟に提出すれば、無料で取得できることに問題がある。

連盟からの委員長宛の書類が、委員長の手元まで届かないという、俱楽部側の体質の問題がある。

3. グリーンシステムの料金について

現在は、提出枚数による料金の違いはないが、年間提出枚数を

1. 5,000枚以下

2. 5,000~10,000枚

3. 10,000枚以上

の3段階にわけ、料金について横浜計算センターと折衝することとした。

4. 広報活動について

イ、各県ハンディキャップ委員会長会議を開

催することを再度確認した。

ロ、最近、ホール・ハンディキャップ・ナンバーについての問い合わせが非常に多く、ハンディキャップ委員会「ハンディキャップ便覧 その2」として、ホール・ハンディキャップ・ナンバーについて、具体的な方法を記し、各俱楽部に配布、指導していくこととした。

5. グリーンシステムの5枚の仮ハンディキャップについて

提出枚数10枚以下の場合、便宜的処置として仮ハンディキャップを発行していたが、採用カードが少ないため適切なハンディキャップが算出しにくく、また、それが明記されないために多々問題があった。今後証明書に、仮ハンディキャップであるということを明記し、採用枚数の見直しをすることを確認した。

6. 俱楽部ハンディキャップ内規について

ひな型を作成し、今後委員会で、その内容、配布方法等の検討を重ねることを確認した。

63年度 第1回コース・レート委員会議事録

日 時 昭和63年3月29日(火) 正午

場 所 JGA会議室

出席者 尾関委員長、新井副委員長、北村、小室、前川、松岡、諸戸、内藤、中野、岡田 各委員

—討議及び決議事項—

1. 昭和63年度委員会方針の件

尾関委員長挨拶の後、新任委員の紹介をおこなった。また、コース・レート査定の理念と方法について、新井副委員長より説明があり、各委員より、以下のようないわんや意見交換が行われた。

査定は、関東ゴルフ連盟の全権をもって行っており、公正をきさすことが大前提になる。

尺度として距離の測定が基本になるが、各委員のプレーイング・ディスタンスが毎回のゴルフ場では、特に必要になっていく。

コースの質(新規・既存コースの作り方)の違いから、他コースと比較をして査定を行うことは難しくなった。

心理的プレッシャー(コースの作りによる)などをどの程度難易度に入れるかは、今後の検討課題とする。

難易度の感じ方は、委員により差があるが(その差が重要なのだかり)、一応の

分科委員会

目安として、コース難易度チェック表の作成も検討する。

2. 対応スケジュールの件

現在査定申請中の俱楽部について、別記のとおり決定した。
また、査定は正式オープン後、1年経過していることを条件とし、未加盟で会員登録中の俱楽部については行わないこととした。

3. その他

昨今、ゴルフ界に女性の進出が目立ち、それに伴い競技・ハンディキャップ査定等で、第3のティからの査定を望む俱楽部が多くなってきた。しかし、コースによっては極端なレイアウト差の問題で距離の差だけでは机上査定が困難な俱楽部もあり、同時にハンディキャップの問題も含まれているため、次回委員会で再度検討し、日本ゴルフ協会ハンディキャップ委員会に報告をし、その方針に従うこととした。

63年度コース・レート査定スケジュール

- 新茨城カントリークラブ 秋以降
- 日立高鈴ゴルフ俱楽部 6月23日
- 柏崎カントリークラブ 7月12日
- 東ノ宮カントリークラブ 6月23日
- 日本海カントリークラブ 7月13日
- 鷹彦スリーカントリー 秋以降
- 日動御殿場コース 7月25日
- 広陵カントリークラブ 64年10月以降
- 中山カントリークラブ 4月25日
- 佐倉カントリークラブ 4月19日
- ロイヤルメドウガルフクラブ 11月以降
- 新津カントリークラブ 机上査定

63年度 第2回コース・レート委員会

日 時 63年7月1日(金) 正午
場 所 JGA会議室
出席者 尾関委員長、金沢、小室、小林、松岡、諸戸、岡田 各委員

—討議及び決議事項—

1. 中山カントリークラブ以下4俱楽部のコース・レート査定の件
上記俱楽部のコース・レートについて、配布の資料をもとに次のように決定した。

(1) 中山カントリークラブ

(イ) 高麗グリーン
バック・ティ 72.6
レギュラー・ティ 69.8
(ロ) ベントグリーン
バック・ティ 71.7
レギュラー・ティ 69.3

(2) 佐倉カントリー俱楽部

(イ) 高麗グリーン
バック・ティ 69.5
レギュラー・ティ 68.0
(ロ) ベントグリーン
バック・ティ 70.0
レギュラー・ティ 68.4

(3) 日立高鈴ゴルフ俱楽部

(イ) 高麗グリーン
バック・ティ 69.0
レギュラー・ティ 67.3
(ロ) ベントグリーン
バック・ティ 69.6
レギュラー・ティ 68.0

(4) 東ノ宮カントリークラブ

(イ) ベントグリーン
さつき・あおい
バック・ティ 72.7
レギュラー・ティ 70.8

さつき・おばな
バック・ティ 72.3
レギュラー・ティ 70.2

あおい・おばな
バック・ティ 71.6
レギュラー・ティ 69.2

(注) 高麗グリーンは変更なし

2. 63年度コース・レート査定スケジュールの件

7月1日現在、申請のあった俱楽部について、以下の通り決定した。
% スプリングフィルゴルフクラブ
25 アロエースゴルフクラブ
26 グレンビーカマーノゴルフクラブ
% 境川カントリー俱楽部
19 房総カントリークラブ 大上ゴルフ場
28 赤城ゴルフ俱楽部
29 赤城国際カントリークラブ
% ロイヤルメドウガルフクラブ
※酒匂ロイヤルゴルフ俱楽部は、次回委員会にて日程を決めることとした。

うと、不正確な実測図を用意している場合もあり、公正な査定の妨げとなっている。中部ゴルフ連盟では、実測図について、専門業者の測量を義務づけているが、連盟でもそれにならったらどうだろうか。

③コース・レートの数字を高める為に、通常ではおよそ使用しないようなバック・ティを査定用に用意しているが、問題があるのでないか。

以上の意見にたいして、討議がなされ、尾関委員長より、以下の回答、方針が示された。

(1)日本のゴルフ場は、地形の問題などにより、ただ単に距離だけではなく、図りにくい難易度があるため、どうしてもプレーイング・ディスタンスにたよる査定になってしまう。しかし、持ち運びに便利な距離測定機があるなら、委員会としてもこれから調査し、検討していくべき。

(2)確かに正確な測量図は、査定には必要不可欠なものもあるが、費用の面からも、専門業者による測量を、俱楽部側に義務づけるには当委員会の決定だけでは難しく、理事会にかける必要がある。

ただ、新設コースには当然あるはずなので、提出を義務づけることは、可能である。

(3)査定指示書を改正した。
また、実際に査定を行って、特におかしいところは、その場で俱楽部側に指摘して、指導することとする。

62年度 第10回月例競技委員会議事録

日 時 63年2月4日(木) 正午
場 所 KGA
出席者 松野委員長、山崎・川島副委員長、大久保、岡田、阪田、嶋田 各委員

—討議及び決議事項—

1. 1月度月例競技報告及び総括

川島副委員長より下記の報告及び総括がなされた。

天候に恵まれ、グリーンの状態も良く、スコアも良かった。特に女子が入賞者総て70台と言うのは、冬季としては良い成績であった。

しかし、プレーの時間(とくにスタート時間)が、コースのレイアウトの関係で非常に遅かった。

エントリー数は以下の通り
開催日昭和63年1月26日(火)

開催コース 程ヶ谷カントリー俱楽部

エントリー 180名(男子117名、女子63名)

欠席者数 事前9名(男子4名、女子5名)

当日0名

無断欠席 0名

出場者数 171名(男子113名、女子58名)

科調者 1名(遅刻)

失格者 1名(過少申告)

3. 63年2月例出場有資格者確認の件

男子493名 女子190名

上記を確認した。

3. 2月のテーマ

- プレーの迅速化
- 前方のティ・グラウンドを横切らない

63年度 第1回月例競技委員会議事録

日 時 63年4月6日(木) 正午

場 所 JGA会議室

出席者 松野委員長、山崎・川島副委員長、松岡、岡田、大久保、各委員学連委員

—討議及び決議事項—

1. 3月度月例競技報告及び総括

川島副委員長より下記の報告がなされた。

朝はひえたが、無風の絶好のコンディションであった。グリーンが重くむづかしかったが、男女ともまずまずの成績であった。また、スタートにバス移動があったにもかかわらず、プレーと同様に、進行はスムーズであった。

エントリー数は以下の通り

エントリー 165名(男子110名、女子55名)

欠席者数 12名(男子10名、女子2名)

無断欠席 0名

出場者数 153名(男子100名、女子53名)

科調者 4名(遅刻、ミーティング欠席)

失格者 1名(自署もれ)

2. 4月度月例出場有資格者確認の件

男子 520名 女子 205名

上記を確認した。

3. 関東学生ゴルフ連盟出場選手推薦の件

松野委員長より、推薦出場選手は、男子10名、女子5名程度。有効期間は、4月よりの1年間とするとの提案がなされ、全員これを承認した。

また、学生連盟内での推薦基準、出場する際の所属先(俱楽部・学連)等を明確にすることを要請した。学生連盟委員は、これを受け、学生連盟検討事項とすることを確認した。

4. 6、7、8月の競技方法について

今年度は男女とも、18ホール・ストローク・プレーとすることを確認した。

5. 6月度男子特別推薦選手について

日本ゴルフ協会より、中国アマチュア選手団が来日するので、連盟のトッ

プアチュア研修の場である月例競技にぜひ参加させたい、との要請があつた旨、松野委員長より報告され、6月男子月例参加を了承した。

6. 4月のテーマ

- プレーの迅速化
- ボール・マークの修復の徹底

63年度 第2回月例競技委員会議事録

日 時 63年6月6日(月) 正午

場 所 JGA会議室

出席者 松野委員長、山崎・川島副委員長、松岡、岡田、大久保、各委員学連委員

—討議及び決議事項—

1. 4月度月例競技報告及び総括

大久保委員より下記の報告がなされた。
朝はひえたが、無風の絶好のコンディションであった。グリーンが重くむづかしかったが、男女ともまずまずの成績であった。また、スタートにバス移動があったにもかかわらず、プレーと同様に、進行はスムーズであった。日後注意が必要と思われた。

エントリー数は以下の通り

エントリー 199名(男子115名、女子84名)

欠席者数 11名(男子7名、女子4名)

無断欠席 0名

出場者数 188名(男子108名、女子80名)

科調者 3名(ミーティング欠席)

失格者 0名

2. 6月度月例出場有資格者確認の件

男子 540名 女子 230名

上記を確認した。

3. 6月のテーマ

- 前方のティ・グラウンドを横切らない。
- プレーの迅速化
- ボール・マークの修復の徹底

4. 64年度開催コースについて

松野委員長より、選定方法についての説明があり、次回まで各委員検討し候補コースを持ちよることを確認した。

5. その他

- 6、7、8月の競技方法について
今年度は男女とも、18ホール・ストローク・プレーとすることを確認した。
- 6月度男子特別推薦選手について
日本ゴルフ協会より、中国アマチュア選手団が来日するので、連盟のトッ

分科委員会

②関東学生ゴルフ連盟出場選手推薦の件

学生連盟より、男子9名、女子2名の推薦選手の申請があり、全員これを承認した。

③6月度男子特別参加選手について
日本ゴルフ協会より申請のあった、中国アマチュア選手、及び日本ナショナルチーム選手の参加を再度確認し、これを了承した。

63年度 第3回月例競技委員会議事録

日 時 63年6月27日(月) 正午
場 所 パレスビル6F ロイヤル会議室
出席者 松野委員長、山崎・川島副委員長、松岡、岡田・大久保、岡野、阪田、嶋田 各委員

—討議及び決議事項—

1. 6月度月例競技報告及び総括

(女子)
大久保委員より下記の報告、総括がなされた。

雨天、長距離、深いラフ等、女子には難しい条件、状況のため、スコアは伸びなかつた。しかし、競技進行はスマーズであった。いつものことながら、開催俱楽部の協力に感謝。

また、遅刻者0、欠席1名であり、毎回このような運営が望まれる。

エントリー数は以下の通り

エントリー 55名
欠席者数 1名
無断欠席 0名
出場者数 54名

科 論 者 0名
失 格 者 0名
(男子)

山崎副委員長より下記の報告、総括がなされた。

6月梅雨期に於ては、晴天、無風の絶好的コンディションであった。また、コースも日本オープンの開催に向けて、メンテナンスも十分であり、最良のコースコンディションであった。今回は中国の選手4名、強化選手11名が参加し、いわば日中友好競技となり、いつもなく盛り上がり、内容も充実したものとなつた。

エントリー数は以下の通り
エントリー 136名 ゲスト11名(含む、中国選手4名)

欠席者数 3名
無断欠席 0名

出 場 者 数 133名

科 論 者 0名

失 格 者 1名(過少申告)

次回プレー・オフ 阪田 哲男

岡田 光正

2. 7月月例出場有資格者確認の件

男子 513名 女子 189名
上記を確認した。

3. 7月のテーマ

●ティ・グラウンドの前方を横切らない

●ボール・マークの修復の徹底

4. 64年度開催俱楽部について

松野委員長より以下の方針が示された。

固定化せず、新しい俱楽部での開催も考慮したいが、64年度はこれまでの経過、選手の希望等があり、大筋は63年度のままでしたい。但し、武藏は64年度女子オープン、関東ジュニア決勝の開催俱楽部に決定しており、俱楽部の準備、負担を考えると、月例は遠慮すべきと思う。また、開催月次については、俱楽部の意向、使用グリーンのコンディション等を考えて、再検討し、次回委員会で決定したい。

また、候補として新たに、関東アマ決勝、日本アマ開催俱楽部をコースとして追加したい。
以上を全員了承、確認した。

63年度 第1回ジュニア委員会議事録

日 時 63年3月23日(木) 17時30分
場 所 JGA会議室

出席者 斎藤委員長、大鰐、田辺副委員長、上代、小出、山本、大久保、奥延、嶋田、安間 各委員

—決議事項—

斎藤委員長挨拶の後、新任委員を紹介、議事に入った。

1. 第16回ジュニア・ゴルフ教室の件

(3月30日～4月1日 烏山城カントリークラブ)

机上配布資料に基づき、大鰐副委員長より、下記の詳細な説明がなされ、全員確認した。

今年度は、開催俱楽部が、クラブハウス改造のため、食堂の利用人員が限定されるので、タイムスケジュールの管理面でとくに留意されたい。

2. 開東ジュニア選手権予選競技の運営について
委員長、副委員長より、昨年度の運

營を総括した結果、今年度は、ジュニアの健康管理ということを第一に考え、改めてその運営方法を見直す時期ではないだろうか、という方針が出された。具体的に「100ストローク以内でラウンドできる者」を徹底すること、1日2回のスタートをなくし、午前だけのスタートとすることなどが提案され、全員、これを確認した。

また、例年通りのさくら草の18ホール、なの花の18ホールに加え、れんげ草の9ホールを借用する方針で検討して行くことを確認した。

なお、スコアチェックのために集計所を2カ所にできないか、などの意見が出ていた。

3. 実施規定について(使用球問題)

高ゴルフ、スピニチの意見もあるだろうが、委員会としては、公認球のラージボールを使用することを確認した。

4. 夏季ジュニア教室および初心者教室の件

夏休み恒例のジュニア教室は、下記の日程で開催することを内定、事務局が開催俱楽部と交渉手続きすることにした。

①初級者 8月29日(月) ノーサンカントリークラブ
②中・上級者 8月22日(月) 桜ヶ丘カントリークラブ

8月26日(金) 東京ゴルフ俱楽部

63年度 第2回広報委員会議事録

日 時 63年4月8日(金)
場 所 JGA会議室

出席者 森井委員長、深井副委員長、石川、笠原、宮本、杉山 各委員 陪席
杉原(凸版)

—決議事項—

1. 「KGAニュースNo.22」総括

各委員より下記の意見が出された。

・理事長インタビューは3ページは最低必要である。

・「新規加盟俱楽部紹介」は、文章量等の体裁を整える必要がある。

・俱楽部代表者等の変更の記事には本来、顔写真・経歴を小さくとも載せてるべきだ。

2. 「KGAニュースNo.23」編集企画について
事務局立案の別紙の企画案は承認された。また、各競技の担当者が以下の

ようないきなりに決定した。

(関東女子) 石川、宮本 各委員、(関東アマ) 片山、杉山 各委員、(俱楽部対抗) 深井副委員長、笠原、宮本 各委員

各委員より次記の意見が出された。

・委員長インタビューについては台割にこだわらず、適当な原稿量にする。

・「ルールQ&A」は新たに規則が変わっているわけではないので1ページにしても良いかも。

・俱楽部対抗(予選)はページ数が多いが、関心のある読者も多く、昨年度のスタイル(各地域ごとの原稿依頼)でよい。今回は、各地域優勝チームのキャプテンにテーマを与え依頼すればより充実したものになるであろう。

・俱楽部対抗は予選、決勝とも記者とカメラマンの意図が偏集段階で生きるようにして欲しい。また、当日の天候の項目を加えれば、より記録性が高まる。

3. その他

・何らかの形で諸競技の写真を保存すべきでないか。

・広報委員会、「KGAニュース」の基本的性格づけが必要ではないか。

63年度 第1回グリーン委員会議事録

日 時 63年4月26日(火) 17時
場 所 日本出版クラブ会館

出席者 古賀委員長、小宮山副委員長、佐久見、福山、萩原、平林、角田、勝又、大河原、坂本、鶴島 各委員、江原、顧問、柳 参加

—決議事項—

1. 第17回KGAグリーン研究講習会総括

4月26日13時より、日本出版クラブ会館において開催された。

上記講習会について、下記の総括を行なつた。受講者は、講習会始まって以来の多数(89俱楽部 228名)であった。また、江原先生の講演も専門的な内容を平易に説明、好評であった。

2. 次回グリーン研究講習会のテーマについて

事務局立案の別紙の企画案は承認された。また、各競技の担当者が以下の

予定。

63年度 第1回税対策委員会議事録

日 時 63年6月8日(水) 正午

場 所 JGA会議室

出席者 松浦委員長、小宮山副委員長、相山、古茶、佐藤(和)、林、佐久見、萩原、平林、勝又、孤塚、宮川、水野、大河原、坂本、佐藤(辰) 各委員

—決議事項—

松浦委員長の挨拶、各委員自己紹介の後、机上配布の資料をもとに討議に入った。

1. 昭和63年度運動方針について

—利用税実態調査、自由民主党税制調査会主催「税制改正に関する懇談会」、自治省陳情報告—

上記の件について、松浦委員長より以下の報告、方針が示された。

当委員会の回数を重ねる必要があったが、ご承知のように、動きが急なので、その対応に追われて集めにいた時間がなかった。現在も大きなうねりにどう対処するか大事な局面にたたされていて。

62年度の利用税実態調査は皆様のご努力、協力のおかげで回答数1,374俱楽部、回収率93%ときて良好な結果であった。また内容、精度も高いもので、関係団体(自治省、文部省、大蔵省、自民税調査委員会、ゴルフ産業議員連盟)への陳情、働きかけの際に大きな力となつた。先方の評価も高いものであった。委員諸氏の努力に感謝する。

また、去る4月6日に行われた、自由民主党税制調査会「税制改革に関する懇談会」ヒアリングにも出席した。

これは、財日本ゴルフ協会の所轄省である文部省より要請があつたもので、一般競技団体としてはゴルフが唯一であった。このこと自体、高く評価されてよいことと思う。あらかじめ示されていた12の質問に対し、回答し、個別の問題については7分間づつ陳述した。

本来ならば、12項目一つづつについて、諸氏の意見をうかがつから、回答内容をまとめるべきだとは思ったが、急なことだったので、別紙のような回答を代表として行なつた。了承されたい。

以上の報告、方針にたいし、出席委員より次記のような質問、意見が述べられた。

- ・委員長、副委員長のご努力に感謝する。燃費の二文字だけは、いかなることがあってもとりはらってほしい。
- ・小宮山副委員長……市町村からかなりの圧力がある。パチンコ業界は逆に「娛樂」の二文字を残せと主張している。今御引きが始まつた段階だ。
- ・議員ゴルフ連盟の反応は?
- ・松浦委員長……基本的には、ゴルフ界の要望に賛意を示している。ただ構成議員の内の、市町村、県会、知事出身の議員は、地方財政に残したいと考えているようだ。
- ・考えてみれば、シャープ勧告から40年、税体制は全然変わっていない。改正は時代の趨勢といえよう。
- ・関係各省の反応はどうか?
- ・松浦委員長……文部省は、ゴルフ界に大変好意的である。陳情書の作成にあたっても、担当官がゴルフ界のこと勉強して、いろいろ助言してくれた。通産省も好意的である。大蔵省は模様をながめているといったところか。自治省はご承知のような対応をしている。繰り返しになるが、実態調査等の資料が大きな武器となっており、これだけきちんとしたものをまとめられるのは、ゴルフ界のまとまりを示す象徴的なことといえる。
- ・その「実態調査」であるが、毎年、それなりに苦労して集めている。系列ゴルフ場全てが、提出しないところもある。
- 当委員会として、何等かの手段を考えるべきだ。
- ・松浦委員長……早速調査して、協力を要請文を届けることにしたい。
- 最後に、税制抜本改革にあたり、娛樂施設利用税撤廃と、名称の如何を問わず、地方税を併課することのなきよう、今後も積極的に陳情、運動を展開したい。
- 委員各位の協力を重ねてお願いする。

月例競技成績表

(63年2月月例)

参加：男子93名 東北3名 推薦3名
女子54名 東北1名 2月25日㈬

於：筑波カントリークラブ
(男子)

順位 氏名 個楽部 アウト イン 合計
1 大友富雄 塩原 37 34 71
2 中島広行 伊豆ヶ崎 35 37 72
3 版田哲男 袖ヶ浦 36 36 72

コース・レート 72.3

(注) 1月度月例プレー・オフは版田哲男(袖ヶ浦)氏が優勝しました

(女子)

順位 氏名 個楽部 アウト イン 合計
1 渡辺恵子 高根 39 39 78
2 金田正子 大厚木 40 41 81
3 中田朱美 袖ヶ浦 41 41 82
3 内田シ子 東ノ宮 39 43 82

コース・レート 69.9

(63年3月月例)

参加：男子95名 東北5名 女子52名
於：高坂カントリークラブ岩殿コース

(男子)

順位 氏名 個楽部 アウト イン 合計
1 田中光正 嶺山 36 36 72
2 松崎良一 東名厚木 36 36 72
3 田島謙一 美野原 37 36 73
4 羽島豊 藤岡 35 38 73

コース・レート 71.8

(女子)

順位 氏名 個楽部 アウト イン 合計
1 渡辺恵子 高根 35 38 73
2 原田香里 烏山城 40 37 77
3 青木英子 袖ヶ浦 38 39 77

コース・レート 70.0

(63年4月月例)

参加：男子108名 女子75名 4月18日㈪
於：大利根カントリークラブ西コース

(男子)

順位 氏名 個楽部 アウト イン 合計
1 田中光正 嶺山 36 36 72
2 深澤赳一 新千葉 35 36 71
3 福田徳康 御殿場 35 37 72

コース・レート 73.1

(注) 3月度月例プレー・オフは松崎良一(東名厚木)氏が優勝しました

(女子)

順位 氏名 個楽部 アウト イン 合計
1 渡辺恵子 高根 35 38 73
2 原田香里 烏山城 40 37 77
3 青木英子 袖ヶ浦 38 39 77

コース・レート 70.0

コース・レート 73.1

(63年6月月例)

参加：

122名

特別ゲスト11名

於：

東京ゴルフ俱楽部

6月22日㈬

(男子)

順位 氏名 個楽部 アウト イン 合計

1 杉山直也 萩原 38 32 70

2 沢田哲男 袖ヶ浦 35 35 70

3 岡田光正 風山 35 35 70

3 杉山直也 萩原 35 36 71

3 国部太郎 専修大 36 35 71

3 加藤東光 甘楽 36 35 71

3 羽島豊 藤岡 36 35 71

コース・レート 73.1

(女子)

参 加：54名 6月24日㈮

(女子)

於：桜ヶ丘カントリークラブ

順位 氏名 個楽部 アウト イン 合計

1 渡辺恵子 高根 35 38 73

2 原田香里 烏山城 35 40 75

3 青木英子 袖ヶ浦 41 41 82

2 金田正子 大厚木 40 43 83

2 尾間久江 武藏 40 43 83

コース・レート 70.0

コース・レート 70.0

お知らせ

関東ゴルフ連盟「加盟俱楽部便覧」(63年1月31日現在)の変更事項は下記のとおりです。
お手数ですが、訂正加筆をお願いします。

俱楽部名称

(新)湯沢ゴルフ俱楽部
(III)湯沢ハイカントリー俱楽部
(新)ゴルフデン・レイクス・カントリークラブ
(II)にのみやカントリークラブ
(新)水戸グリーンカントリークラブ
(II)水戸グリーンカントリー俱楽部
(新)小御門カントリークラブ
(II)成田国際カントリー俱楽部

コース増設

●玉造ゴルフ俱楽部 稲木コース
⑤311-35方郡玉造町大字稲木724
⑤02995-5-3000 ⑤02995-5-3139

理事長

●大新潟カントリー俱楽部 (新)鈴木倉一郎
(II)吉崎 満雄

●富士川カントリークラブ (新)飛鳥 章
(II)飛鳥 齊

●妙義スプリングスカントリー俱楽部
(新)渡辺 武信

(II)山本 刚(代行)
●唐津ゴルフ俱楽部 (新)吉澤 兵左
(II)藤松 正憲

●塩原カントリークラブ (新)和田 勝一
(II)山本 光春

●水戸・ゴルフ・クラブ (新)加藤 国夫
(II)山本 光春

●霞ヶ関カントリー俱楽部 (新)井戸 英二
(II)澤田 健

●東松山カントリークラブ (新)西村 忠雄
(II)田中亮次郎

●小金井カントリー俱楽部 (新)谷 勝馬
(II)出光 計助

●府中カントリークラブ (新)大野 忠男
(II)宮部 甫

●相模原ゴルフ・クラブ (新)寺西 信美
(II)血脇 芳雄

俱楽部代表者

●妙義スプリングスカントリー俱楽部
(新)渡辺 武信

(II)山本 刚
(新)吉崎 満雄

(II)助川 広直
(II)にのみやカントリークラブ

(新)田代 義徳
(II)山本 光春

●龍ヶ崎カントリー俱楽部 (新)堀切 治雄

(II)金尾 實
(新)神井 光男

(II)山崎 正勝
●霞ヶ関カントリー俱楽部 (新)廣海 泰三

(II)澤田 健
●鶴ヶ島カントリークラブ (新)安藤 勇

(II)大澤 武次
●小金井カントリー俱楽部 (新)谷 勝馬

(II)出光 計助
●府中カントリークラブ (新)大野 忠男

(II)宮部 甫
(新)草野 和幸

(II)鈴木 正治
●相模原ゴルフ・クラブ (新)寺西 信美

(II)血脇 芳雄
●大然湖畔ゴルフクラブ (新)畠 典彦

(II)辻田 良市
●支那人
●紫雲ゴルフ俱楽部 (新)佐藤 俊雄

(II)高野 政喜
●信州駒ヶ根カントリークラブ
(新)下平 米司

(II)高増 實
●松本カントリークラブ (新)横山 勝秋

●プリンスランドゴルフクラブ (新)崎 英男
●鳳凰ゴルフ俱楽部 (新)一重 繁自

●庭沼カントリー俱楽部 (新)門田 良二
(II)武山 久

●早月ゴルフ俱楽部 膜沼コース
(新)柳本 元徳
(II)前田 花弥

●城山カントリー俱楽部 (新)石原 勝
(II)串田 善一

●嵐月カントリー俱楽部 (新)若松 利雄

●麻生カントリークラブ (新)吉田 真良
(II)田中 守

●川越グリーンクロス (新)宇津木政雄

(II)中森 勇
●鶴ヶ島カントリークラブ (新)安藤 勇

●ノーザンカントリークラブ 錦ヶ原ゴルフ場
(新)服部 文雄

(II)田中 豊
●東松山カントリークラブ (新)上野喜一郎

(II)平田 敏夫
●武蔵松山カントリークラブ
(新)木崎 和志

(II)浅見 勝男
●鹿野山カントリークラブ (新)山良 葬

(II)宮永 武二
●スカイウェイカントリークラブ
(新)古幡 利雄

(II)工藤 実宏
●総成カントリー俱楽部 (新)北村 芳夫

(II)山崎 平
●大秦野カントリークラブ (新)岡田 英穂

●伊豆郡宮崎カントリークラブ
(新)碓井利一郎
(II)服部 文雄

●ザンクロスカントリークラブ
(新)鈴木 昇
(II)須崎 文雄

●浜松シーサイドゴルフクラブ
(新)福田 豊

(II)岩田 一郎
●富士御殿場ゴルフ俱楽部 (新)武山 久

(II)門田 良二